工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行						
共通的工種		植生筋	工種区分 施工規模	㎡	10	
共通的工種		植生穴	削孔数	㎡	10	
共通的工種		養生（散水養生）		㎡	10	
共通的工種	かご工	じゃかご・ふとんかご・かご枠	幅 高さ （じゃかご：）径 （ふとんかご：）種別 （ふとんかご：）規格 詰石種類 詰石規格	m	1	
共通的工種		止杭	止杭規格	本	1	
共通的工種		かごマット（スロープ型）	かご厚さ かご本体材質 詰石種類 詰石規格	㎡	1	
共通的工種		かごマット（多段積型）	かご本体材質 詰石種類 詰石規格	㎡	1	
共通的工種		帯鋼補強土壁･アンカー補強土壁・ジオテキスタイル補強土壁	土質	㎡	1	
共通的工種		補強盛土	壁面材の種類	㎡	1	
共通的工種	軽量盛土工	軽量盛土		㎡	1	
共通的工種		コンクリート床版	コンクリート規格 厚さ	㎡	1	
共通的工種		基礎コンクリート	コンクリート規格	m	1	
共通的工種		壁体工	支柱仕様・規格 壁面材仕様・規格	㎡	1	
共通的工種		裏込砕石	砕石規格	㎡	1	
共通的工種	吸出し防止工	吸出し防止材	材質 種類 厚さ	㎡	10	ただし100㎡未満の場合は1㎡
共通的工種	泥水処理工	泥水処理		㎥	10	
共通的工種	仮水路工	フィルター材敷設	管種別 管径 フィルター材の種類	㎥	1	
共通的工種	場所打擁壁工	処分費		㎥	1	
共通的工種	仮橋･仮桟橋工	積込（コンクリート殻）		㎥	1	
共通的工種	骨材再生工	骨材再生	投入殻寸法	㎥	1	
共通的工種	土留･仮締切工	ボーリングマシン移設（アンカー）		回	1	
共通的工種	土留･仮締切工	アンカー工材料費	アンカー工材数量	式	1	
共通的工種	土留･仮締切工	削孔（アンカー）	削孔長 方式 呼び径 土質区分	m	1	
共通的工種	土留･仮締切工	グラウト注入（アンカー）	注入材規格 圧縮強度	㎥	1	
共通的工種	ｱﾝｶｰ工(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ板)	ＰＣコンクリート板据付	フレームタイプ	枚	1	
共通的工種	ｱﾝｶｰ工(ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ板)	ジョイント処理		箇所	1	
共通的工種	排水材設置工		幅 厚さ	m	1	
基礎工	既製杭工	既製コンクリート杭	杭種別 杭径 杭長	本	1	ただし1本当りの場合は1m

1-1-8

改正						
現行どおり						
共通的工種	補強土壁工	帯鋼補強土壁･アンカー補強土壁・ジオテキスタイル補強土壁	土質	㎡	1	
現行どおり						
共通的工種	排水材設置工（構造物背面排水材）		幅 厚さ	m	1	
共通的工種	排水材設置工（水平排水層）	水平排水材	幅 厚さ	m	1	

次頁へ移動

備考
記載の追加
記載の追加

積算上の注意事項		（控え頁） 1／19

工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考
前頁から移動	共通的工種 / フィルター層 / フィルター材の種類 / ㎡ / 10 / ただし100㎡未満の場合は1㎡ 基礎工 / 既製杭工 / 既製コンクリート杭 / 杭種別 杭径 杭長 杭打込長（掘削長） / 本 / 1 / ただし1本当りの場合は1m	記載の追加
現行どおり		
基礎工 / 場所打杭工 / 場所打杭 / 杭径 杭長（設計長） / 本 / 1 / ただし1本当りの場合は0.1m	~~基礎工~~ / ~~掘削土処理~~ / ~~土質~~ / ~~㎥~~ / ~~10~~	記載の削除
現行どおり		
基礎工 / 合成杭工 / 合成杭 / 杭種別 杭径 杭長 / 本 / 1 / ただし1本当りの場合は0.1m	~~基礎工~~ / ~~掘削土処理~~ / ~~土質~~ / ~~㎥~~ / ~~10~~ ~~基礎工~~ / ~~合成杭工~~ / ~~合成杭~~ / ~~杭種別~~ ~~杭径~~ ~~杭長~~ / ~~本~~ / ~~1~~ / ~~ただし1本当りの場合は0.1m~~ ~~基礎工~~ / ~~掘削土処理~~ / ~~土質~~ / ~~㎥~~ / ~~10~~	記載の削除
現行どおり		

基礎工		鋼管杭	鋼管径（杭径） 鋼管長さ（杭長）	本	1	ただし1本当りの場合は0.5m
基礎工		H鋼杭	H鋼形式 H鋼長さ（杭長） H型鋼平均打込長 [H型鋼平均引抜長]	本	1	ただし1本当りの場合は0.5m
基礎工		掘削土処理	土質	㎥	10	
基礎工	場所打杭工	場所打杭	杭径 杭長（設計長）	本	1	ただし1本当りの場合は0.1m
基礎工		掘削土処理	土質	㎥	10	
基礎工	合成杭工	合成杭	杭種別 杭径 杭長	本	1	ただし1本当りの場合は0.1m
基礎工		掘削土処理	土質	㎥	10	
基礎工	ニューマチックケーソン基礎工	ニューマチックケーソン設備		式	1	
基礎工		刃口金物据付		基	1	
基礎工		沈下掘削		㎥	10	
基礎工		沈下促進	水荷重形式 載荷材料形式（コンクリートブロック）	t	0.1	
基礎工		ケーソン本体コンクリート	コンクリート規格	㎥	1	
基礎工		底スラブコンクリート	コンクリート規格	㎥	1	
基礎工		中埋コンクリート	コンクリート規格	㎥	1	
基礎工		ブローパイプバルブ調整		基	1	
基礎工		中詰充填	中詰材規格	㎥	100	ただし1,000㎥未満の場合は10㎥
基礎工		砂セントル	材料規格	㎥	10	ただし100㎥未満の場合は1㎥
基礎工		天端コンクリート用型枠・支保		㎥	10	
基礎工		足場材設置・撤去		式	1	
基礎工		止水壁取壊し	施工方法	㎥	1	
基礎工	深礎工・シャフト工	巻立コンクリート	敷厚 構造物種別 コンクリート規格	㎥	1	
基礎工		掘削土留	杭径 杭長	本	1	
基礎工		グラウト注入	注入材規格 圧縮強度	㎥	1	
基礎工	鋼管井筒基礎工	鋼管矢板	鋼管材質 鋼管径 鋼管長さ 打込工法	本	1	
基礎工		井筒内掘削		㎥	10	
基礎工		継手処理		本	1	
基礎工		鋼管内掘削		㎥	10	
基礎工		中詰コンクリート	コンクリート規格	㎥	1	
基礎工		敷砂	敷砂規格	㎥	10	ただし100㎥未満の場合は1㎥
基礎工		底版コンクリート	コンクリート規格	㎥	1	
基礎工		杭切断	鋼管杭径	本	1	

現行どおり

1-1-9

積算上の注意事項		（控え頁） 2／19

工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正／現行	

現行	改正	備考

舗装工	踏掛版工	踏掛版	コンクリート規格 鉄筋材料規格・径	㎡	1	
舗装工	区画線工	区画線	施工方法区分 規格・仕様区分 塗布厚 排水性舗装用の有無	m	10	ただし100m未満の場合は1m
舗装工		区画線消去	施工方法区分	m	1	
地盤改良工	路床安定処理工	安定処理	混合深さ 固化材100m2あたり使用量 固化材の種類	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡
地盤改良工	自走式土質改良工	土質改良	改良土質 固化材1m3あたり使用量 固化材の種類	㎡	100	ただし1000㎡未満の場合は10㎡
地盤改良工	表層安定処理	サンドマット	砂材料費の有無	㎡	10	
地盤改良工		安定シート・ネット	シート種類	㎡	10	
地盤改良工		表層混合処理		㎡	10	
地盤改良工		置換	置換材料 施工数量	㎡	100	ただし1,000㎡未満の場合は10㎡
地盤改良工	置換工	置換	置換材料 施工数量	㎡	100	ただし1,000㎡未満の場合は10㎡
地盤改良工	サンドマット工	サンドマット	砂材料費の有無	㎡	10	
地盤改良工	パイルネット工	既製コンクリート杭	杭種別 杭径 杭長 杭打込長（掘削長）	本	1	
地盤改良工		木杭	杭材質 杭長 杭末口	本	1	
地盤改良工		連結鉄筋	鉄筋材料規格・径	t	0.1	ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ
地盤改良工		安定シート	シート種類	㎡	10	
地盤改良工	バーチカルドレーン工	サンドドレーン	径 ＳＤ打設長 ＳＤ杭径 ＳＣＰ径 ＳＣＰ打設長 ＳＣＰ杭径	本	1	
地盤改良工		PVD(プレファブリケイティッドバーチカルドレーン)	材料規格 長さ（打設長）	本	1	
地盤改良工	締固め改良工	サンドコンパクションパイル	径 ＳＤ打設長 ＳＤ杭径 ＳＣＰ径 ＳＣＰ打設長 ＳＣＰ杭径	本	1	
地盤改良工	固結工	粉体噴射撹拌	改良材種類 杭径 長さ（打設長） 長さ（杭長）	本	1	
地盤改良工		粉体噴射撹拌（先掘・移設・軸間変更）	改良材種類 杭径 長さ（打設長） 長さ（杭長）	式	1	
地盤改良工		高圧噴射撹拌	工法 注入材種類 長さ（注入長） 長さ（土被長）	本	1	
地盤改良工		スラリー撹拌	改良材種類 杭径 長さ（打設長）	本	1	

1-1-12

現行どおり

地盤改良工	~~路床~~安定処理工	安定処理	混合深さ 固化材100m2あたり使用量 固化材の種類	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡

記載の削除

現行どおり

~~地盤改良工~~	~~表層安定処理~~	~~サンドマット~~	~~砂材料費の有無~~	~~㎡~~	~~10~~	
~~地盤改良工~~		~~安定シート・ネット~~	~~シート種類~~	~~㎡~~	~~10~~	
~~地盤改良工~~		~~表層混合処理~~		~~㎡~~	~~10~~	
~~地盤改良工~~		~~置換~~	~~置換材料 施工数量~~	~~㎡~~	~~100~~	~~ただし1,000㎡未満の場合は10㎡~~

記載の削除

現行どおり

~~地盤改良工~~	~~固結工~~	~~粉体噴射撹拌~~	~~改良材種類 杭径 長さ（打設長） 長さ（杭長）~~	~~本~~	~~1~~	
~~地盤改良工~~		~~粉体噴射撹拌（先掘・移設・軸間変更）~~	~~改良材種類 杭径 長さ（打設長） 長さ（杭長）~~	~~式~~	~~1~~	
地盤改良工	~~固結工~~	高圧噴射撹拌	工法 注入材種類 長さ（注入長） 長さ（土被長）	本	1	

記載の削除

現行どおり

積算上の注意事項		（控え頁） 3／19

工　　種	基本事項

改 正 理 由	一部改正	改　正 現　行	

現　　行

地盤改良工		中層混合処理	改良深度 施工規模	㎥	1	
地盤改良工		薬液注入	注入材料	本	1	
地盤改良工（ＩＣＴ）	表層安定処理工	安定処理（ＩＣＴ）	混合深さ 固化材100㎡あたり使用量 固化材の種類	㎡	1	
地盤改良工（ＩＣＴ）	固結工	スラリー撹拌（ＩＣＴ）	改良材種類 杭径，長さ（打設長） 長さ（杭長）	本	1	
地盤改良工（ＩＣＴ）		中層混合処理（ＩＣＴ）	改良深度 施工規模	㎥	1	
構造物撤去工	構造物取壊し工	コンクリート構造物取壊し	構造物区分 工法区分 施工規模	㎥	1	
構造物撤去工		舗装版切断	舗装版種別 舗装厚	m	10	ただし100m未満の場合は1m
構造物撤去工		舗装版破砕	舗装版種別 舗装版厚	㎡	10	ただし100㎡未満の場合は1㎡
構造物撤去工		コンクリートはつり	平均はつり厚	㎡	1	ただし10㎡未満の場合は0．1㎡
構造物撤去工		吹付法面取壊し	集積積込の有無 工法区分	㎡	10	ただし100㎡未満の場合は1㎡
構造物撤去工		鋼材切断	鋼材規格（種類他）	箇所	1	
構造物撤去工		鋼材切断	鋼材規格（種類他）	m	1	
構造物撤去工		鋼矢板引抜	鋼矢板型式 引抜長	枚	1	
構造物撤去工		H鋼杭引抜	H鋼形式 引抜長	本	1	
構造物撤去工		広幅鋼矢板引抜き	鋼矢板型式 引抜長	枚	1	
構造物撤去工		コンクリートブロック撤去		㎡	10	ただし100㎡未満の場合は1㎡
構造物撤去工		覆工板設置・撤去		㎡	10	ただし100㎡未満の場合は1㎡
構造物撤去工		根固めブロック撤去	ブロック規格	個	1	
構造物撤去工		殻運搬	殻種別	㎥	1	
構造物撤去工		殻処分	殻種別	㎥	1	
構造物撤去工		現場発生品運搬	発生材種類	t	0．01	
構造物撤去工	道路施設撤去工	側溝・街渠撤去	作業区分	m	1	
構造物撤去工		集水桝・マンホール撤去	製品質量（kg/基）	基	1	
構造物撤去工		蓋版撤去		枚	1	
構造物撤去工		防護・防止柵撤去		m	1	
構造物撤去工		視線誘導標撤去	視線誘導標規格 施工区分 施工規模	本	1	
構造物撤去工		境界杭撤去	施工規模	本	1	
構造物撤去工		道路鋲撤去	施工区分 施工規模	個	1	
構造物撤去工		車線分離標撤去	施工区分 施工規模	本	1	
構造物撤去工		境界鋲撤去	施工規模	枚	1	
構造物撤去工		距離標撤去	施工区分	本	1	

1-1-13

改　　正

前頁へ移動

地盤改良工（ＩＣＴ）	~~表層~~安定処理工	安定処理（ＩＣＴ）	混合深さ 固化材100㎡あたり使用量 固化材の種類	㎡	1	

現行どおり

備　　考

記載の削除

積算上の注意事項		（控え頁） 4／19

工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

仮設工	ﾄﾝﾈﾙ仮設備工	スライドセントル組立解体		基	1	
仮設工	ﾄﾝﾈﾙ仮設備工	防水作業台車組立解体		基	1	
仮設工	ｺﾝｸﾘｰﾄ製造設備工	コンクリートプラント設備		基	1	
仮設工	ｺﾝｸﾘｰﾄ製造設備工	ケーブルクレーン設備		対	1	
仮設工	除雪工	現場内除雪（機械）	貸与区分	時間	1	
仮設工	除雪工	現場内除雪（人力）		人日	1	
仮設工	除雪工	仮囲い屋根部		㎡	1	
仮設工	雪寒施設工	雪寒仮囲い	仮囲い規格 設置・撤去	㎡	1	
仮設工	雪寒施設工	ウェザーシェルター		基	1	
構造物補修工		充てん工法	1構造物当り補修延べ延長 材料種類	構造物	1	
構造物補修工		低圧注入工法	1構造物当り補修延べ延長材料種類	構造物	1	
構造物補修工		左官工法	1構造物当り補修延べ体積材料種類 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無	構造物	1	
コンクリート構造物		基礎材	基礎材規格（砕石の場合等） 敷厚	㎡	10	ただし100㎡未満の場合は1㎡
コンクリート構造物		均しコンクリート	コンクリート規格 敷厚	㎡	10	ただし100㎡未満の場合は1㎡
コンクリート構造物		コンクリート	コンクリート規格 養生費 コンクリート夜間割増の有無	㎥	1	
コンクリート構造物		二次コンクリート	規格	㎥	1	
コンクリート構造物		鉄筋	鉄筋材料規格・径	t	0.01	
コンクリート構造物		目地材	目地材種類・厚さ	㎡	1	
コンクリート構造物		止水板	止水板種類・寸法	m	1	
コンクリート構造物		型枠	型枠の種類	㎡	10	ただし100㎡未満の場合は1㎡
コンクリート構造物		足場	安全ネットの有無	掛㎡	10	
コンクリート構造物		支保	支保耐力○○以上	空㎥	10	
コンクリート構造物		植石張り	構造区分 石材径 胴込・裏込コンクリート規格 裏込材規格	㎡	1	
コンクリート構造物		水抜パイプ	管径・管種類 フィルターの有無	m	1	
コンクリート構造物		スリップバー	鉄筋材料規格・径	箇所	1	
コンクリート構造物		スリップバー	鉄筋材料規格・径	組	1	
コンクリート構造物		防水モルタル	セメント種類 混合比	㎡	1	

1-1-16

改正

前頁へ移動

構造物補修工	ひび割れ補修工	充てん工法	1構造物当り補修延べ延長 材料種類	構造物	1	
構造物補修工		低圧注入工法	1構造物当り補修延べ延長材料種類	構造物	1	
構造物補修工	断面修復工	左官工法	1構造物当り補修延べ体積材料種類 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無	構造物	1	
構造物補修工		コンクリート殻積込・運搬		㎥	1	

現行どおり

備考

記載の追加

積算上の注意事項

（控え頁）

工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

コンクリート構造物		有孔管	作業区分 工法区分 施工規模	m	1	
コンクリート構造物		可撓継手	内幅 内高	箇所	1	
コンクリート構造物	橋台躯体工(構造物単位)	逆T式橋台	高さ区分 打設量区分 コンクリート規格 化粧型枠の有無	㎥	1	
コンクリート構造物	橋脚躯体工(構造物単位)	T型橋脚	高さ区分 打設量区分 コンクリート規格 化粧型枠の有無	㎥	1	
コンクリート構造物	橋脚躯体工(構造物単位)	壁式橋脚	高さ区分 打設量区分 コンクリート規格 化粧型枠の有無	㎥	1	
コンクリート構造物	場所打擁壁工(構造物単位)	小型擁壁	擁壁平均高さ 本体コンクリート規格	㎥	1	
コンクリート構造物	場所打擁壁工(構造物単位)	重力式擁壁	擁壁平均高さ 本体コンクリート規格	㎥	1	
コンクリート構造物	場所打擁壁工(構造物単位)	もたれ式擁壁	本体コンクリート規格	㎥	1	
コンクリート構造物	場所打擁壁工(構造物単位)	逆T型擁壁	本体コンクリート規格	㎥	1	
コンクリート構造物	場所打擁壁工(構造物単位)	L型擁壁	本体コンクリート規格	㎥	1	
コンクリート構造物	羽口工	連節ﾌﾞﾛｯｸ張(ｺﾝｸﾘｰﾄ)		㎡	1	
コンクリート構造物	暗渠工	プレキャストボックス	内幅 内高	m	1	
構造物	帯状構造物(小規模)工		幅 高さ コンクリート規格	m	1	各種ブロック(既製品共)H＝2.0m未満の擁壁類
構造物	帯状構造物(大規模)工		コンクリート規格 幅 高さ	m	0.1	H＝2.0m以上の擁壁類
構造物	排水構造物工		管規格	m	1	ただし径1m以上の管渠類の場合は0.1m
構造物	排水構造物工	現場打水路	内幅（複単不使用の場合） 内高（複単不使用の場合） コンクリート規格	m	1	
構造物	排水構造物工	縦排水・小段排水	U型側溝の種類 U型側溝の規格 内幅（各種の場合） 内高（各種の場合） 作業区分 コンクリート打設の有無 コンクリート規格 目地板の有無 目地板の種類 目地板の種類（各種の場合）	m	1	
構造物	場所打函渠工(構造物単位)	函渠	内幅 内高 コンクリート規格	㎥	1	

1-1-17

改正

前頁へ移動

コンクリート構造物	~~橋脚躯体工(構造物単位)~~	T型橋脚	高さ区分 打設量区分 コンクリート規格 化粧型枠の有無	㎥	1	

現行どおり

備考

記載の削除

積算上の注意事項		（控え頁） 6／19

工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

付属施設	観測施設工	量水標	量水標規格	箇所	1	
付属施設		水位計	水位計規格	箇所	1	
付属施設		流量計	流量計規格	箇所	1	
付属施設	燃料貯油槽工	充填砂	砂種類	㎥	10	
付属施設	情報案内施設工	スクリーン	材質 形状	個	1	
付属施設	情報案内施設工	案内板	材質 形状	箇所	1	
河川構造物	土台基礎工	土台		m	1	
河川構造物	笠コンクリート工	笠コンクリート	コンクリート規格 底幅 高さ	m	1	
河川構造物		笠コンクリートブロック	ブロック規格 底幅 高さ	m	1	
河川構造物	護岸付属物工	横帯（隔壁）コンクリート	幅 高さ コンクリート規格	m	0.1	
河川構造物		小口止	コンクリート規格 幅 高さ	m	0.1	
河川構造物		小口止矢板	鋼矢板材質 鋼矢板型式 鋼矢板長さ	枚	1	
河川構造物		縦帯コンクリート	コンクリート規格 幅 高さ	m	0.1	
河川構造物		巻止コンクリート	コンクリート規格 幅 高さ	m	0.1	
河川構造物		平張コンクリート	コンクリート規格 底幅 天端幅 高さ	㎡	1	
河川構造物	多自然護岸工	木杭	杭材質 杭長 杭末口	本	1	
河川構造物		巨石張(積)	石材径 （練：）遮水シートの有無 （練：）止水シートの有無 （空：）吸出し防止材の有無	㎡	1	
河川構造物		巨石据付	石材径	㎡	1	
河川構造物		巨石採取		個	1	
河川構造物	多自然護岸工	巨石運搬		式	1	
河川構造物		雑割石張	空石規格	㎡	1	
河川構造物		かごマット	かご厚さ かご本体材質 詰石種類 詰石規格	㎡	1	
河川構造物		ブロックマット	法勾配	㎡	1	
河川構造物		杭柵		m	1	
河川構造物		連柴柵		m	1	
河川構造物		粗朶法覆		㎡	1	

1-1-21

改正

前頁へ移動

現行どおり

河川構造物		巨石積(張)	石材径 （練：）遮水シートの有無 （練：）止水シートの有無 （空：）吸出し防止材の有無	㎡	1	

現行どおり

河川構造物	~~多自然護岸工~~	巨石運搬		式	1	

現行どおり

備考

記載の追加

記載の削除

積算上の注意事項		（控え頁） 7／19

工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行							改正	備考
海岸	海岸コンクリート(根固・消波)ブロック工	海岸コンクリート(根固・消波)ブロック製作	ブロック種類（型式） ブロック種類（実質量）	個	1		前頁へ移動	
海岸		海岸コンクリート(根固・消波)ブロック据付	ブロック種類（型式） ブロック種類（実質量） ブロック購入の有無	個	1			
海岸	護岸工	裏込(砕)石	砕石規格	㎥	1			
海岸		石材	石材規格	㎥	1			
海岸	コンクリート被覆工	コンクリート	コンクリート規格 養生費 コンクリート夜間割増の有無	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡		
海岸	捨石工	中詰石	石材規格	㎥	1			
海岸		捨石	石材規格	㎥	1			
海岸		捨石均し	均し区分	㎡	10			
海岸		表面均し		㎡	10			
海岸	被覆石工	被覆石据付	石材規格	㎥	1			
海岸		被覆石均し	均し区分	㎡	10			
海岸	被覆ブロック工	被覆ブロック据付	ブロック種類（型式） ブロック種類（実質量） ブロック購入の有無	個	1			
海岸	矢板工	鋼矢板防食	防食規格	㎡	1			
海岸	詰杭工	既製コンクリート杭	杭種別 杭径 杭長 杭打込長（掘削長）	本	1			
海岸		コンクリートパネル	パネル規格 ブロック規格	枚	1			
海岸		中詰石	石材規格	㎥	1			
海岸		表面均し		㎡	10			
海岸	石枠工	コンクリート枠製作	コンクリート規格	個	1			
海岸		コンクリート枠据付	ブロック規格	個	1			
海岸		中詰石	石材規格	㎥	1			
海岸		捨石均し	均し区分	㎡	10			
海岸	ケーソン・セルラー工	ケーソン等運搬・据付		個	1			
海岸		中詰砂・石	石材規格	㎥	1			
海岸		表面均し		㎡	10			
浚渫工	浚渫船運転工(ポンプ浚渫船)	浚渫船運転	浚渫区分 貸与区分	㎥	100	ただし1,000㎥未満の場合は10㎥	現行どおり	
浚渫工		排砂管(設備)	排砂管径 設置高さ	本	1			
浚渫工		浚渫船機械管理費（官船）	貸与船船種・船級 フロータ長 フロータ径 排砂管径 排砂管本数 フロータ数 ゴムジョイント数	日	1			
浚渫工		排砂管保守		日	1			
浚渫工		揚錨船運転		日	1			
浚渫工		交通船運転		日	1			

1-1-24

~~浚渫工~~	~~浚渫船運転工(ポンプ浚渫船)~~	~~浚渫船運転~~	~~浚渫船区分 貸与区分~~	~~㎥~~	~~100~~	~~ただし1,000㎥未満の場合は10㎥~~	記載の削除	
~~浚渫工~~		~~排砂管(設備)~~	~~排砂管径 設置高さ~~	~~本~~	~~1~~			
~~浚渫工~~		~~浚渫船機械管理費（官船）~~	~~貸与船船種・船級 フロータ長 フロータ径 排砂管径 排砂管本数 フロータ数 ゴムジョイント数~~	~~日~~	~~1~~			
~~浚渫工~~		~~排砂管保守~~		~~日~~	~~1~~			
~~浚渫工~~		~~揚錨船運転~~		~~日~~	~~1~~			
~~浚渫工~~		~~交通船運転~~		~~日~~	~~1~~			

積算上の注意事項		（控え頁） 8／19

工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行							改正	備考
浚渫工		警戒船運転		日	1		浚渫工　警戒船運転　日　1	記載の削除
浚渫工	浚渫船運転工(グラブ浚渫船)	浚渫船運転	浚渫船区分 貸与区分	㎥	100	ただし1,000㎥未満の場合は10㎥	前頁へ移動	
浚渫工		浚渫船等機械管理費	浚渫船規格 汚濁防止枠の有無	日	1			
浚渫工	作業船及び機械運転工(グラブ浚渫船)	揚錨船運転		日	1			
浚渫工		交通船運転		日	1			
浚渫工		土運搬船運転		日	1			
浚渫工		曳船運転		日	1			
浚渫工		警戒船運転		日	1			
浚渫工	バックホウ浚渫船	バックホウ浚渫船運転	浚渫船区分 貸与区分	㎥	100	ただし1,000㎥未満の場合は10㎥		
浚渫工		繋船運転		日	1			
浚渫工		土運船運転		日	1			
浚渫工		浚渫土揚土		日	1			
浚渫工	バックホウ浚渫船（ＩＣＴ）	バックホウ浚渫船運転	浚渫船区分	㎥	100	ただし1,000㎥未満の場合は10㎥		
浚渫工	配土工	配土		日	1			
浚渫工	浚渫土処理工	浚渫土処理		㎥	10			
鋼橋上部工	地組工	地組		t	0.1	ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ		
鋼橋上部工	床版工	床版架設		㎡	1			
鋼橋上部工	架設工	各種設備		式	1			
鋼橋上部工		桁架設	規格 桁種類	t	0.1	ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ		
鋼橋上部工	現場継手工	本締めボルト		本	1			
鋼橋上部工		鋼床板現場溶接		m	1			
鋼橋上部工	支承工	金属支承設置	支承規格	個	1			
鋼橋上部工		大型ゴム支承設置	支承規格	個	1			
鋼橋上部工	伸縮装置工	鋼・ゴム製伸縮装置	伸縮装置規格	m	0.1			
鋼橋上部工		鋼製伸縮装置	伸縮装置規格 工種	t	0.1			
鋼橋上部工		埋設ジョイント	ジョイント規格 工種	m	1			
鋼橋上部工	落橋防止装置工	落橋防止装置	材質規格（寸法等）	箇所	1			
鋼橋上部工	排水装置工	排水桝	桝規格	箇所	1			
鋼橋上部工		排水管	管規格	m	1			
鋼橋上部工	地覆工	場所打地覆	形状寸法	m	1			
鋼橋上部工		プレキャスト地覆	ブロック規格 底幅 高さ	m	1			
鋼橋上部工	橋梁用防護柵工	橋梁用防護柵		m	1			
鋼橋上部工	橋梁用高欄工	橋梁用高欄	材質 作業区分 高欄形式	m	1			
鋼橋上部工	検査路工	検査路		m	1			
鋼橋上部工	銘板工	橋名板	材質	枚	1			
鋼橋上部工		橋歴板		枚	1			
鋼橋上部工	架設工	シェッド架設		t	0.1			
鋼橋上部工	屋根ｺﾝｸﾘｰﾄ工	溶接金網	線径	㎡	1			

1-1-25

現行どおり

積算上の注意事項		（控え頁） 9／19

工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行							改正							備考
植栽維持工		防除	薬剤種類 施工内容 施工規模 時間制約補正 夜間作業補正 施工場所別補正	本	1		前頁へ移動							
植栽維持工		寄植・芝薬剤散布	薬剤種類 施工内容 施工規模 施工場所別補正	㎡	10									
植栽維持工		芝刈	芝種類	㎡	1,000	ただし100,000㎡未満の場合は100㎡								
河川維持	河川巡視工	緊急巡視		回	1									
河川維持	堤防除草工	除草		㎡	1,000	ただし100,000㎡未満の場合は100㎡								
河川維持	芝養生工	施肥	肥料種類 肥料使用量	㎡	1,000	ただし100,000㎡未満の場合は100㎡								
河川維持		抜根	抜根工作区分 タイヤ損耗費	㎡	1,000	ただし100,000㎡未満の場合は100㎡								
河川維持	伐木除根工	伐木除根	樹木・竹の区分　樹木密集度	㎡	1,000	ただし100,000㎡未満の場合は100㎡								
河川維持	塵芥処理工	散在塵芥収集		㎡	1,000	ただし100,000㎡未満の場合は100㎡								
河川維持		堆積塵芥収集		㎥	10	ただし100㎥未満の場合は1㎥								
河川維持	水面清掃工	水面清掃		日	1									
河川維持	応急処理作業	応急作業	作業形態	日	1									
河川維持	ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞｸﾞﾗｳﾄ工	注入	注入材料規格 注入日数 注入量	m	1									
河川維持	ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞｸﾞﾗｳﾄ工	注入設備据付解体		回	1									
河川維持	欠損部補修工	欠損部取壊し		㎥	1									
河川維持	欠損部補修工	欠損部補修	補修工法	㎡	1									
河川維持	不陸整正工	不陸整正・締固め	補足材の有無 補修材の種類 補修材の厚さ	㎡	1									
河川維持	付属物復旧工	調整ポスト	支柱間隔	個	1									
河川維持	付属物設置工	標識		基	1									
河川維持	塵芥処理工	処分費		t	1									
河川維持	樹木･芝生管理工	補植	樹種 樹高	本	1									
道路修繕	路面切削工	路面切削	施工区分・平均切削深さ 段差すりつけ撤去作業の有無	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡	現行どおり							
道路修繕	舗装打換え工	舗装版切断	舗装版種別 舗装厚	m	10	ただし100m未満の場合は1m								
道路修繕		舗装版破砕	舗装版種別 舗装版厚	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡								
道路修繕	切削オーバーレイ工	切削オーバーレイ	平均切削深さ 舗設層数 段差すりつけ区分 アスファルト材料種類	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡								
道路修繕	舗装打換え工・オーバーレイ工	基層	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡	現行どおり							
							道路修繕	切削オーバーレイ工（ＩＣＴ）	切削オーバーレイ（ＩＣＴ）	平均切削深さ 舗設層数 段差すりつけ区分 アスファルト材料種類	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡	記載の追加

積算上の注意事項		（控え頁） 10／19

工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

道路修繕		表層	材料種類 材料規格 舗装厚 平均幅員	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡
道路修繕	路上路盤再生工	路上路盤再生	混合深さ 混合用乳剤の有無 養生工の有無 砂散布の有無	㎡	10	ただし1,000㎡未満の場合は1㎡
道路修繕	床版補強工(鋼板接着・増桁架設工法)	鋼板接着		㎡	1	
道路修繕		クラック処理	使用材料の種類	m	1	
道路修繕		足場	安全ネットの有無	㎡	10	
道路修繕		防護		㎡	10	
道路修繕		増桁架設	障害の有無	t	0.1	ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ
道路修繕	床版増厚補強工	表面荒らし		㎡	1	
道路修繕	床版取替工	鋼製高欄取替	作業区分 高欄形式	m	1	
道路修繕		床版運搬処理	処理費の有無 作業内容積込 工法区分	㎡	1	
道路修繕	鋼桁補強工	現場溶接鋼桁補強		m	1	
道路修繕	伸縮継手工	鋼製伸縮継手補修	伸縮装置補修	m	0.1	
道路修繕		埋設ジョイント補修	ジョイント規格 伸縮装置断面積 工種 取付部位 工法区分 補修形式	m	0.1	
道路修繕	鋼橋・ＰＣ支承工	支承取替	支承形式 現場条件	基	1	
道路修繕	トンネル補修工	低圧注入工法	１トンネル当り補修延べ延長 材料種類	トンネル	1	
道路修繕	検査路工	検査路		t	0.1	
道路修繕	沓座拡幅工	チッピング		㎡	1	ただし10㎡未満の場合は0.1㎡
道路修繕		削孔	削孔工法 削孔土質	孔	1	
道路修繕		アンカーボルト挿入	アンカーボルト種類 注入材材質	本	1	
道路修繕		鋼製沓座設置	鋼製沓座種類 設置箇所数	箇所	1	
道路修繕	排水施設工	排水桝	桝規格	箇所	1	
道路修繕		排水管	管規格	m	1	
道路修繕	横断歩道橋工	高欄・手摺		t	0.1	
道路修繕		側板	作業区分 側板規格	t	0.1	
道路修繕		ノンスリップ	ノンスリップの規格	m	1	
道路修繕	ＲＣ橋脚鋼板巻立て工	鋼板取付	注入材材質	㎡	1	
道路修繕		現場溶接	平均板厚	m	1	

1-1-33

改正

前頁へ移動

~~道路修繕~~	~~床版補強工(鋼板接着・増桁架設工法)~~	~~鋼板接着~~		~~㎡~~	~~1~~	
道路修繕	床版補強工	クラック処理	使用材料の種類	m	1	

~~道路修繕~~		~~増桁架設~~	~~障害の有無~~	~~t~~	~~0.1~~	~~ただし1ｔ未満の場合は0.01ｔ~~

道路修繕	落橋防止装置工	落橋防止装置	材質規格（寸法等）	箇所	1	
道路修繕		コンクリート削孔	削孔径 削孔深さ	孔	1	
道路修繕		アンカー	適用アンカー材径 削孔方向 注入材種類	本	1	
道路修繕		充填補修	補修材種類	孔	1	
道路修繕		現場孔明（鋼構造物）	作業条件	本	1	

現行どおり

道路修繕		コンクリート削孔	削孔径 削孔深さ	孔	1	
道路修繕		アンカー~~ボルト筋~~挿入（コンクリート沓座拡幅）	アンカー~~ボルト筋~~種類 注入材材質	本	1	
道路修繕		鋼製~~沓座~~ブラケット設置	鋼製~~沓座~~ブラケット種類 設置箇所数	箇所	1	

現行どおり

備考

記載の追加・削除

記載の削除

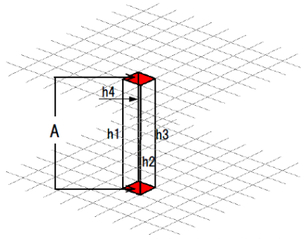
記載の追加

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 11／19

工　種	基本事項

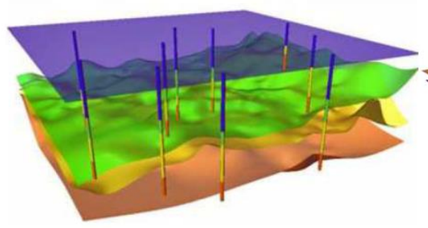
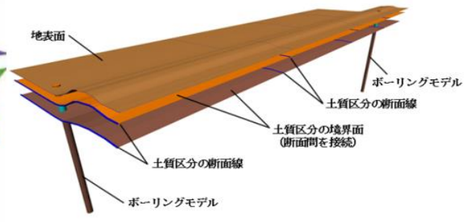
改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
1．10　BIM/CIM モデルによる数量算出方法 数量の算出は「１．２　数量計算方法」によるほか下記の方法によるものとする。 １．土構造物 算出方法 3 次元 CAD ソフト等を用いたａ）～ｄ）の方式 数量算出に用いる 3 次元点群座標データまた同様に数量算出に用いるサーフェスデータのメッシュの大きさは、50cm 間隔以下の密度とする。ただし、3 次元点群座標データにおいて植生等により測定した点が正しく地表を捉えられず、標準の点密度の取得が困難な場合には、この限りでない。 ａ）点高法 2 つの面データに重ね合わせたメッシュ（等間隔）交点で標高を算出し、標高差にメッシュ間隔の面積を乗じたものを総和する。メッシュ間隔は 50cm 以内とし、標高差の算出には、以下の方法とする。 4 点平均法：メッシュ交点の四隅の標高差を平均する方法  $V = A \times \frac{(h1 + h2 + h3 + h4)}{4}$ 1 点法：メッシュ交点にて標高差を算出する方法	**1．10　3次元モデルによる数量算出方法** 現行どおり	**記載の変更**

積算上の注意事項		（控え頁） 12／19

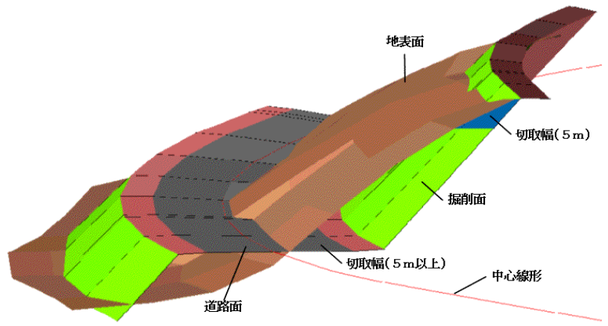
工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
（2）BIM/CIM モデルによる数量算出方法 土構造物の数量算出に用いる BIM/CIM モデル（サーフェスモデル等）は、地表面や地層面をモデル化した「3 次元地盤モデル」と、「掘削」における施工基面又は法面や「盛土」における路床面又は法面等をモデル化した「土工モデル」である。これらのモデルを重ね合わせて、各面の標高差分を用いる点高法等により、土構造物の数量を算出する。	（2）3 次元モデルによる数量算出方法 土構造物の数量算出に用いる 3 次元モデル（サーフェスモデル等）は、地表面や地層面をモデル化した「3 次元地盤モデル」と、「掘削」における施工基面又は法面や「盛土」における路床面又は法面等をモデル化した「土工モデル」である。これらのモデルを重ね合わせて、各面の標高差分を用いる点高法等により、土構造物の数量を算出する。	**記載の変更**
土工（掘削、盛土）や残土処分の数量は、3 次元地盤モデルに現地盤線や施工基面（計画路床・河床面）等を表現した土工モデルや構造物モデル等を重ね合わせ、その体積の差分等により算出する。	**現行どおり**	
1）3 次元地盤モデル（土質） 「3 次元地盤モデル」は、地表面の地形及び地盤内の土質区分を 3 次元でモデル化したもので、サーフェスモデル又は、連続面モデルで境界面を表現する。連続面モデルとは平均断面法と同様にボーリングデータ等に基づく地質断面図を用いて土質区分の断面を表現し、一次比例で断面間を補完して接続したものである。		
 サーフェスモデル  連続面モデル		
1-1-42		

積算上の注意事項		（控え頁） 13／19

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
2）施工形態（土工モデル） （A）掘削 a）道路 オープンカットや片切掘削等における切取幅（数量算出区分に応じた幅）の境界面は、サーフェスモデル等を用いて表現する。切取幅の境界面サーフェスは、平均断面法と同様に切り出した断面で切取幅（5.0m）の境界線を作成し、複数の断面間の空間にソリッドモデルまたは、サーフェスモデルを作成するロフトと呼ばれる 3 次元 CAD ソフトウェアの機能により接続したものである。  	現行どおり	
b）河川 現況及び計画のそれぞれで、構造物（築堤、高水敷、低水路等）の BIM/CIM モデル（サーフェスモデル）を作成し、構造物ごとに数量が集計できるように、それぞれの BIM/CIM モデルに属性を付与する。 堤防横断構造の場合、河川構造物堤防横断構造物の A 領域、B 領域を区別する機械区分の境界面は、サーフェスモデル等を用いて表現する。	b）河川 現況及び計画のそれぞれで、構造物（築堤、高水敷、低水路等）の 3 次元モデル（サーフェスモデル）を作成し、構造物ごとに数量が集計できるように、それぞれの 3 次元モデルに属性を付与する。 堤防横断構造の場合、河川構造物堤防横断構造物の A 領域、B 領域を区別する機械区分の境界面は、サーフェスモデル等を用いて表現する。	記載の変更
	現行どおり	

積算上の注意事項		（控え頁） 14／19

工　種	基本事項

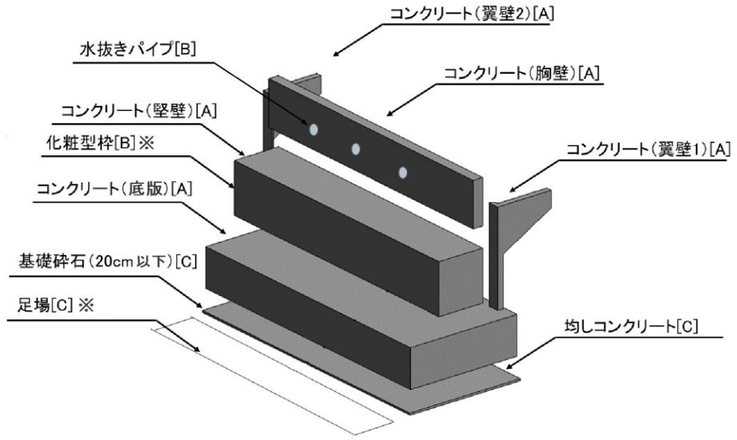
改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
（B）盛土 ａ）道路 盛土の部位（路体盛土、路床盛土、路肩盛土、歩道盛土、土羽土）ごとにBIM/CIMモデル（サーフェスモデル）を作成し、部位ごとに数量が集計できるように属性を付与する。また、土質区分ごとに集計できるように、土質区分も属性情報として付与する。なお、設計段階で盛土に利用する土質が分からない場合はその限りでない。 路体盛土及び路床盛土の施工幅員（数量算出区分に応じた幅）は、サーフェスモデル等を用いて表現する。施工幅員の境界面のサーフェスモデルは、平均断面法と同様に切り出した断面で施工幅員の境界線を作成し、複数の断面間の空間にソリッドモデルまたは、サーフェスモデルを作成するロフトと呼ばれる3次元CADソフトウェアの機能により接続したものである。 ｂ）河川 構造物（築堤、高水敷、低水路等）及び盛土の部位（築堤盛土、土羽土）ごとにBIM/CIMモデル（サーフェスモデル）を作成し、構造物及び部位ごとに数量が集計できるように属性を付与する。また、土質区分毎に集計できるように、土質区分も属性情報として付与する。 築堤盛土の施工幅員(数量算出区分に応じた幅)は、サーフェスモデル等を用いて表現する。施工幅員の境界面のサーフェスモデルは、上記の道路盛土と同様に、切り出した断面で施工幅員の境界線を作成し、複数の断面間の空間にソリッドモデルまたは、サーフェスモデルを作成するロフトと呼ばれる3次元CADソフトウェアの機能により接続したものである。	（B）盛土 ａ）道路 盛土の部位（路体盛土、路床盛土、路肩盛土、歩道盛土、土羽土）ごとに3次元モデル（サーフェスモデル）を作成し、部位ごとに数量が集計できるように属性を付与する。また、土質区分ごとに集計できるように、土質区分も属性情報として付与する。なお、設計段階で盛土に利用する土質が分からない場合はその限りでない。 路体盛土及び路床盛土の施工幅員（数量算出区分に応じた幅）は、サーフェスモデル等を用いて表現する。施工幅員の境界面のサーフェスモデルは、平均断面法と同様に切り出した断面で施工幅員の境界線を作成し、複数の断面間の空間にソリッドモデルまたは、サーフェスモデルを作成するロフトと呼ばれる3次元CADソフトウェアの機能により接続したものである。 ｂ）河川 構造物（築堤、高水敷、低水路等）及び盛土の部位（築堤盛土、土羽土）ごとに3次元モデル（サーフェスモデル）を作成し、構造物及び部位ごとに数量が集計できるように属性を付与する。また、土質区分毎に集計できるように、土質区分も属性情報として付与する。 築堤盛土の施工幅員(数量算出区分に応じた幅)は、サーフェスモデル等を用いて表現する。施工幅員の境界面のサーフェスモデルは、上記の道路盛土と同様に、切り出した断面で施工幅員の境界線を作成し、複数の断面間の空間にソリッドモデルまたは、サーフェスモデルを作成するロフトと呼ばれる3次元CADソフトウェアの機能により接続したものである。	**記載の変更**

積算上の注意事項		（控え頁） 15／19

工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考
２．コンクリート構造物 【BIM/CIM モデルによる数量算出】 A：「体積」を算出する項目 BIM/CIM モデルを用いて位置と体積を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。コンクリート等に適用する。 B：「長さ」、「面積」や「個数」を算出する項目 簡易な幾何形状（点、線、面）を用いて位置、延長や面積を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。鉄筋等に適用する。 C：積算上考慮すべき材料等について「必要性の有無」を確認する項目 官積算時に率計上する必要があるかないかを確認する項目。必要性の有無にかかわらず BIM/CIM モデルの作成は不要であるが、官積算時に参照できるよう、注記を付与して確認できるようにすること。 D：対象外とする項目 運搬量や破砕量および、処分費や除雪などの巡回回数や作業時間を算出する項目等については、BIM/CIM モデルを用いた数量算出の対象外とする。 なお、上記は、BIM/CIM モデルによる数量算出を行う際の基本的な分類を示すものであり、必要に応じて「B」や「C」に分類されている項目に「A」や他の数量算出方法を用いることを妨げるものではない。	２．コンクリート構造物 【3 次元モデルによる数量算出】 A：「体積」を算出する項目 3 次元モデルを用いて位置と体積を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。コンクリート等に適用する。 B：「長さ」、「面積」や「個数」を算出する項目 簡易な幾何形状（点、線、面）を用いて位置、延長や面積を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。鉄筋等に適用する。 C：積算上考慮すべき材料等について「必要性の有無」を確認する項目 官積算時に率計上する必要があるかないかを確認する項目。必要性の有無にかかわらず 3 次元モデルの作成は不要であるが、官積算時に参照できるよう、注記を付与して確認できるようにすること。 D：対象外とする項目 運搬量や破砕量および、処分費や除雪などの巡回回数や作業時間を算出する項目等については、3 次元モデルを用いた数量算出の対象外とする。 なお、上記は、3 次元モデルによる数量算出を行う際の基本的な分類を示すものであり、必要に応じて「B」や「C」に分類されている項目に「A」や他の数量算出方法を用いることを妨げるものではない。	**記載の変更**
 ※一般的な土木構造物の「足場」や「型枠」は、数量算出するため「B」を適用する。現場打ち擁壁、函渠工、橋台橋脚、共同溝工等の「足場」や「型枠」は、「コンクリート」に数量が含まれるため「C」を適用する。なお、「化粧型枠」は、数量を算出する必要があることから、本図では「B」を例示している。	現行どおり	

積算上の注意事項		（控え頁） 16／19

工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考
（1）数量算出項目及び区分一覧表 注）1．鉄筋については「第１編（共通編）4.3.1 鉄筋工」によるものとする。 2．基礎砕石（敷均し厚２０cmを超える場合）については、「第１編（共通編） 9.1 基礎・裏込砕石工」によるものとする。 3．冬期の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第１編（共通編） 11.6.2 雪寒仮囲い工」によるものとする。 4．逆Ｔ式橋台のみ必要な場合に計上する。 「橋台・橋脚本体コンクリート」は、BIM/CIMモデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格・形式を区分することより「A」を適用する。 「基礎砕石」の「敷均し厚20cm以下」は、必要性の有無を確認し、必要な場合は計上するが、材料数量の算出は不要のため「C」を適用する。 「基礎砕石」の「敷均し厚20cm超え」は、BIM/CIMモデルより面積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「均しコンクリート」は、必要性の有無を確認する「C」を適用する。 「化粧型枠」を使用する場合は、BIM/CIMモデルより面積を算出するため「B」を適用する。なお、「一般型枠」を使用する場合も同様に「B」を適用するが、第１編（共通編）６章 6.4.1 場所打擁壁工(1)、７章 7.1.1 函渠工(1)、第３編（道路編）７章 7.1.1 橋台・橋脚工(1)、10章 10.1 共同溝工(1)の場合は歩掛で計上しており、数量算出が不要なため、BIM/CIMモデルの作成は不要である。 「鉄筋」は、簡易な幾何形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する 「足場」は「B」を適用するが、第１編（共通編）６章 6.4.1 場所打擁壁工(1)、７章 7.1.1 函渠工(1)、第３編（道路編）７章 7.1.1 橋台・橋脚工(1)、10章 10.1 共同溝工(1)の場合は歩掛で計上しており、数量算出が不要なため、BIM/CIMモデルの作成は不要である。 「水抜きパイプ」は、必要な場合に計上することから「B」を適用するが、第１編（共通編）６章 6.4.1 場所打擁壁工(1)では必要性の有無を確認する場合の「C」を適用する。 1-1-46	（1）数量算出項目及び区分一覧表 注）1．鉄筋については「第１編（共通編）4.3.1 鉄筋工」によるものとする。 2．基礎砕石（敷均し厚２０cmを超える場合）については、「第１編（共通編） 9.1 基礎・裏込砕石工」によるものとする。 3．冬期の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第１編（共通編） 11.6.2 雪寒仮囲い工」によるものとする。 4．逆Ｔ式橋台のみ必要な場合に計上する。 「橋台・橋脚本体コンクリート」は、3次元モデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格・形式を区分することより「A」を適用する。 「基礎砕石」の「敷均し厚20cm以下」は、必要性の有無を確認し、必要な場合は計上するが、材料数量の算出は不要のため「C」を適用する。 「基礎砕石」の「敷均し厚20cm超え」は、3次元モデルより面積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。 「均しコンクリート」は、必要性の有無を確認する「C」を適用する。 「化粧型枠」を使用する場合は、3次元モデルより面積を算出するため「B」を適用する。なお、「一般型枠」を使用する場合も同様に「B」を適用するが、第１編（共通編）６章 6.4.1 場所打擁壁工(1)、７章 7.1.1 函渠工(1)、第３編（道路編）７章 7.1.1 橋台・橋脚工(1)、10章 10.1 共同溝工(1)の場合は歩掛で計上しており、数量算出が不要なため、3次元モデルの作成は不要である。 「鉄筋」は、簡易な幾何形状（点、線、面）を用いて位置と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する 「足場」は「B」を適用するが、第１編（共通編）６章 6.4.1 場所打擁壁工(1)、７章 7.1.1 函渠工(1)、第３編（道路編）７章 7.1.1 橋台・橋脚工(1)、10章 10.1 共同溝工(1)の場合は歩掛で計上しており、数量算出が不要なため、3次元モデルの作成は不要である。 「水抜きパイプ」は、必要な場合に計上することから「B」を適用するが、第１編（共通編）６章 6.4.1 場所打擁壁工(1)では必要性の有無を確認する場合の「C」を適用する。	**記載の変更**

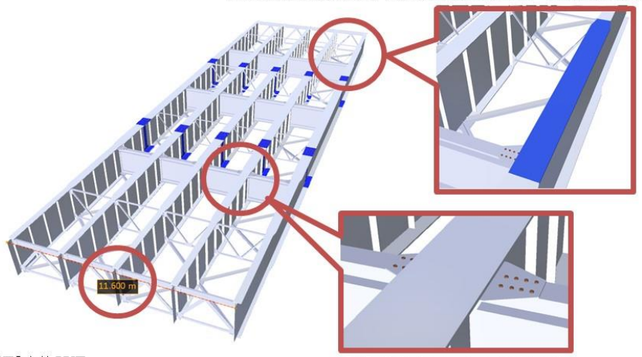
積算上の注意事項		（控え頁） 17／19

工　種	基本事項

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
３．鋼構造物 【BIM/CIMモデルによる数量算出方法】 Ⅰ：「質量」を算出する項目 ・BIM/CIMモデルを用いて位置とネット質量を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。台形部材、全長にわたってテーパーのついた部材等に適用する。 ・グロス質量を必要とする場合は、属性情報を用いて質量を算出する。ガセットプレートや板厚変化のテーパー等に適用する。 Ⅱ：「長さ」、「面積」や「個数」を算出する項目 ・簡易な形状（点、線、面）を用いて位置、延長や面積を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。溶接延長、ハンドホール、マンホール、ボルト・ナットやボルト孔等に適用する。 Ⅲ：BIM/CIMモデルに関連付けした属性情報より数量算出条件を抽出する項目 ・主桁間隔や高さ等を算出する項目に適用する。 ・塗装工等の全表面積等を算出する項目に適用する。 なお、上記は、BIM/CIMモデルによる数量算出を行う際の基本的な分類を示すものであり、必要に応じて「Ⅱ」や「Ⅲ」に分類されている項目に「Ⅰ」や他の数量算出方法を用いることを妨げるものではない。	３．鋼構造物 【3次元モデルによる数量算出方法】 Ⅰ：「質量」を算出する項目 ・3次元モデルを用いて位置とネット質量を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。台形部材、全長にわたってテーパーのついた部材等に適用する。 ・グロス質量を必要とする場合は、属性情報を用いて質量を算出する。ガセットプレートや板厚変化のテーパー等に適用する。 Ⅱ：「長さ」、「面積」や「個数」を算出する項目 ・簡易な形状（点、線、面）を用いて位置、延長や面積を算出し、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。溶接延長、ハンドホール、マンホール、ボルト・ナットやボルト孔等に適用する。 Ⅲ：3次元モデルに関連付けした属性情報より数量算出条件を抽出する項目 ・主桁間隔や高さ等を算出する項目に適用する。 ・塗装工等の全表面積等を算出する項目に適用する。 なお、上記は、3次元モデルによる数量算出を行う際の基本的な分類を示すものであり、必要に応じて「Ⅱ」や「Ⅲ」に分類されている項目に「Ⅰ」や他の数量算出方法を用いることを妨げるものではない。	**記載の変更** **現行どおり**

【Ⅰ】(例)板厚変化のテーパー
グロス質量を必要とする場合は、属性情報を用いて質量を算出する。



【Ⅲ】主桁間隔
3次元モデルに関連付けした属性情報より数量出条件を抽出する項目

【Ⅱ】(例)ボルト・ナットやボルト孔
簡易な形状(点、線、面)を用いて位置、延長や面積を、属性情報を用いて規格や仕様等を区分する。

積算上の注意事項		（控え頁） 18／19

改 正 理 由	一部改正	改　正 現　行	

現　　行

（1）数量算出項目及び区分一覧表

区分／項目	構造名称		BIM/CIM モデル	属性情報						
				構造形式	規格			単位	数量	備考
					材種	材質	寸法			
鋼材質量	橋体	(連毎に区分)	Ⅰ	○	○			kg		
	付属物	支承	Ⅱ	×	○			個(kg)		
		高欄	Ⅱ	×	○			kg		
		防護柵	Ⅱ	×	○			kg		
		伸縮継手	Ⅱ	×	○			kg		
		検査路	Ⅱ	×	○			kg		
		排水装置	Ⅱ	×	○			kg		
		耐震連結装置	Ⅱ	×	○			kg		

「橋体」は、BIM/CIM モデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて構造形式と規格を区分することより「Ⅰ」を適用する。

「付属物」は、BIM/CIM モデルを用いて質量を算出し、属性情報用いて規格を区分するが、二次製品を使用する部材が含まれる場合があるため「Ⅱ」を適用する。なお、質量の算出種別として、ネット質量かグロス質量かを属性情報に明記する。

1-1-48

改　　正

（1）数量算出項目及び区分一覧表

区分／項目	構造名称		3次元モデル	属性情報						
				構造形式	規格			単位	数量	備考
					材種	材質	寸法			
鋼材質量	橋体	(連毎に区分)	Ⅰ	○	○			kg		
	付属物	支承	Ⅱ	×	○			個(kg)		
		高欄	Ⅱ	×	○			kg		
		防護柵	Ⅱ	×	○			kg		
		伸縮継手	Ⅱ	×	○			kg		
		検査路	Ⅱ	×	○			kg		
		排水装置	Ⅱ	×	○			kg		
		耐震連結装置	Ⅱ	×	○			kg		

「橋体」は、3次元モデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて構造形式と規格を区分することより「Ⅰ」を適用する。

「付属物」は、3次元モデルを用いて質量を算出し、属性情報用いて規格を区分するが、二次製品を使用する部材が含まれる場合があるため「Ⅱ」を適用する。なお、質量の算出種別として、ネット質量かグロス質量かを属性情報に明記する。

備　　考

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 19／19

工　種	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考
3章　発泡スチロールを用いた超軽量盛土工 3．1　発泡スチロールを用いた超軽量盛土工 1．適用 超軽量材としての発泡スチロールを盛土、擁壁および橋台等の抗土圧構造物の裏込め等に使用する発泡スチロール工を人力で施工する場合に適用する。 2．数量算出項目 発泡スチロール設置、発泡スチロール（材料費）、緊結金具（材料費）、コンクリート床版、支柱結合アンカー（材料費）、支柱設置、支柱（材料費）、壁面材設置、壁面材（材料費）、裏込砕石（軽量盛土）の数量を区分ごとに算出する。 3．区分 区分は、規格、雑工種、生コンクリート規格、養生工、圧送管延長距離、床板厚さ、溶接金網規格、鉄筋量、盛土高、附帯工の割合、砕石の種類とする。 （1）数量算出項目及び区分一覧表	現行どおり 1．適用 盛土，擁壁及び橋台等の抗土圧構造物の裏込め等に使用する超軽量材としての発泡スチロールを~~盛土、擁壁および橋台等の抗土圧構造物の裏込め等に使用する発泡スチロール工を~~人力で施工する場合に適用する。 2．数量算出項目 発泡スチロール設置、壁面付発泡ｽﾁﾛｰﾙ設置、発泡スチロール（材料費）、壁面材パネル(ガイドピン有り)(材料費)、壁面材パネル(ガイドピン無し)(材料費)、ガイドピン（材料費）、縦目地材（材料費）、横目地材（材料費）、Ｌ型ピン（材料費）、Ｉ型ピン（材料費）、緊結金具（材料費）、コンクリート床版、支柱結合アンカー（材料費）、支柱設置、支柱（材料費）、壁面材設置、壁面材（材料費）、裏込砕石（軽量盛土）の数量を区分ごとに算出する。 次頁へ移動	記載の変更

（1）数量算出項目及び区分一覧表

区分／項目	BIM/CIMモデル	属性情報													
		規格	雑工種	生ｺﾝｸﾘｰﾄ規格	養生工	圧送管延長距離	床板厚さ	溶接金網規格	鉄筋量	盛土高	附帯工の割合	砕石の種類	単位	数量	備考
発泡スチロール設置	A	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m3		
発泡スチロール（材料費）	A	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m3		
緊結金具（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個		
ｺﾝｸﾘｰﾄ床版	A	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	m3		
支柱結合アンカー（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
支柱設置	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
支柱（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
壁面材設置	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m2		
壁面材（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m2		
裏込砕石（軽量盛土）	A	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	m3		

積算上の注意事項		（控え頁） 1／6

工　　種	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

改 正 理 由	一部改正	改　正 現　行	

現　　行	改　　正	備　　考
前頁から移動 →	**3．区分** 区分は、規格、雑工種、生コンクリート規格、養生工、圧送管延長距離、床板厚さ、溶接金網規格、鉄筋量、盛土高、附帯工の割合、砕石の種類とする。 （1）数量算出項目及び区分一覧表	記載の変更

区分／項目	3次元モデル	属性情報													
		規格	雑工種	生ｺﾝｸﾘｰﾄ規格	養生工	圧送管延長距離	床板厚さ	溶接金網規格	鉄筋量	盛土高	附帯工の割合	砕石の種類	単位	数量	備考
発泡ｽﾁﾛｰﾙ設置	A	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m^3		
壁面付発泡ｽﾁﾛｰﾙ設置	A	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m^3		
発泡ｽﾁﾛｰﾙ（材料費）	A	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m^3		
壁面材ﾊﾟﾈﾙ(ｶﾞｲﾄﾞﾋﾟﾝ有り)(材料費)	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m^2		
壁面材ﾊﾟﾈﾙ(ｶﾞｲﾄﾞﾋﾟﾝ無し)(材料費)	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	枚		
ｶﾞｲﾄﾞﾋﾟﾝ（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
縦目地材（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
横目地材（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
L型ピン（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
I型ピン（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
緊結金具（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	個		
ｺﾝｸﾘｰﾄ床版	A	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	m^3		
支柱結合ｱﾝｶｰ（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
支柱設置	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
支柱（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	本		
壁面材設置	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m^2		
壁面材（材料費）	B	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m^2		
裏込砕石（軽量盛土）	A	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	m^3		

積算上の注意事項		（控え頁） 2／6

工　　種	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

改 正 理 由	一部改正	改　正 現　行	

現　　行	改　　正	備　　考
BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする 注）１．軽量盛土（発泡スチロール）の排水材（不織布：厚さ１０mm以下）、基礎砕石（敷均し厚２０ｃm以下）、敷砂（敷均し厚１０ｃm以下）を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。 ２．雑工種における材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。 ３．発泡スチロールブロックの固定のためにＬ型ピンの設置が必要な場合は別途考慮する。 ４．コンクリート床版にグランドアンカー等を結合する場合は別途考慮する。 ５．ベースプレート式H型鋼支柱(H型鋼規格はＨ３００mm×３００mm以下、長さ９m以下)を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。 ６．壁面材１枚当りの規格は、長さ２．５m以下、幅０．６m以下、重量１７０ｋｇ以下を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。 （２）発泡スチロール設置の雑工種による区分 雑工種 排水材＋基礎砕石+敷砂 排水材＋基礎砕石 排水材＋敷砂 基礎砕石＋敷砂 排水材 基礎砕石 敷砂 無し （３）コンクリート床版の養生工による区分 養生工 一般養生 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) （４）コンクリート床版の生コンクリート規格による区分 圧送管延長距離 延長無し ５０m 未満 ５０m 以上１００m 未満 １００m 以上１５０m 以下 注）圧送管延長距離区分は、作業範囲（３０m）を超えて圧送管を延長する場合に、超えた部分の延長距離を該当する区分から選択する。 （５）コンクリート床版の床版厚さによる区分 床版厚さ １０ｃm １５ｃm （６）裏込砕石（軽量盛土）の盛土高による区分 盛土高 ６m 以下 ６m超え（付帯工有り） 1-3-3	3 次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする 注）１．軽量盛土（発泡スチロール）の排水材（不織布：厚さ１０mm以下）、基礎砕石（敷均し厚２０ｃm以下）、敷砂（敷均し厚５ｃm以下）を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。 ２．雑工種における材料は、種別・規格にかかわらず適用できる。 ~~３．発泡スチロールブロックの固定のためにＬ型ピンの設置が必要な場合は別途考慮する。~~ ３．コンクリート床版にグランドアンカー等を結合する場合は別途考慮する。 ４．ベースプレート式H型鋼支柱(H型鋼規格はＨ３００mm×３００mm以下、長さ９m以下)を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。 ５．壁面材（簡易な壁体構造の壁面材を除く）１枚当りの規格は、長さ２．５m以下、幅０．６m以下、重量１７０ｋｇ以下を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。 現行どおり （３）壁面付発泡スチロール設置の規格による区分 規格毎及び下記区分による。 壁面付発泡スチロール設置 ガイドピン有り ガイドピン無し 注）１．壁面付発泡スチロール設置（ガイドピン有り）は、壁面部同士の接続にガイドピンを用いるもので、ガイドピンを用いないものは壁面付発泡スチロール設置（ガイドピン無し）とする。 ２．壁面付発泡スチロール設置（ガイドピン無し）は、壁面材及び取付金具の取付作業について別途考慮する。 （４）コンクリート床版の養生工による区分 養生工 一般養生 特殊養生(練炭・ジェットヒータ) （５）コンクリート床版の生コンクリート規格による区分 圧送管延長距離 延長無し ５０m 未満 ５０m 以上１００m 未満 １００m 以上１５０m 以下 注）圧送管延長距離区分は、作業範囲（３０m）を超えて圧送管を延長する場合に、超えた部分の延長距離を該当する区分から選択する。 次頁へ移動 （６）コンクリート床版の床版厚さによる区分 床版厚さ １０ｃm １５ｃm	記載の変更 記載の追加

積算上の注意事項		（控え頁） 3／6

工　種	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考
前頁から移動 →	（7）裏込砕石（軽量盛土）の盛土高による区分 盛土高 ― 6ｍ 以下 　　― 6ｍ超え（付帯工有り） （8）裏込砕石（軽量盛土）の付帯工の割合による区分 付帯工の割合 ― ０．１ 以下 　　― ０．１ を超え０．２ 以下 　　― ０．２ を超え０．３ 以下 　　― ０．３ を超え０．４ 以下 　　― ０．４ を超え０．５ 以下 　　― ０．５ を超え０．６ 以下 　　― ０．６ を超え０．７ 以下 　　― ０．７ を超え０．８ 以下 　　― ０．８ を超え０．９ 以下 　　― ０．９ を超え１．０ 以下 注）付帯工の割合は、「４．数量算出方法　（８）」により算出する。 関連数量算出項目 （表：3次元モデル／属性情報）	
（7）裏込砕石（軽量盛土）の付帯工の割合による区分 付帯工の割合 ― ０．１ 以下 　　― ０．１ を超え０．２ 以下 　　― ０．２ を超え０．３ 以下 　　― ０．３ を超え０．４ 以下 　　― ０．４ を超え０．５ 以下 　　― ０．５ を超え０．６ 以下 　　― ０．６ を超え０．７ 以下 　　― ０．７ を超え０．８ 以下 　　― ０．８ を超え０．９ 以下 　　― ０．９ を超え１．０ 以下 注）付帯工の割合は、「４．数量算出方法　（７）」により算出する。 関連数量算出項目 （表：BIM/CIMモデル／属性情報）		記載の変更
４．数量算出方法 数量算出は、「第１編（共通編）１章 基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。 （１）発泡スチロール（材料費）は、ロス率を以下とし体積（m^3）を算出する。 （表：項目／ロス率）	現行どおり	
（２）緊結金具（材料費）の発泡スチロールm^3当りの使用量は、ロス率を含み以下とし個数を算出する。 （表：項目／数量）	（２）壁面材パネル（ガイドピン有り）（材料費）、壁面材パネル(ガイドピン無し)(材料費)、ガイドピン（材料費）、縦目地材（材料費）、横目地材（材料費）、Ｌ型ピン（材料費）、Ｉ型ピン（材料費）は、規格ごとに必要となる数量を算出する。	記載の追加
（３）支柱結合アンカー（材料費）は、規格ごとにコンクリート床板体積当りの必要本数（本/m^3）を算出する。 （４）支柱（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。 （５）壁面材（材料費）は、壁面固定金具を含み、規格ごとに壁面面積当りの必要数量（枚/m^2及び個/m^2）を算出する。	（３）緊結金具（材料費）の発泡スチロールm^3当りの使用量は、ロス率を含み以下とし個数を算出する。 （表：項目／数量） 次頁へ移動 →	

関連数量算出項目

項目	BIM/CIM モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
コンクリート（基礎コンクリート部）	A	m^3		「第１編（共通編）４．１コンクリート工」参照
型枠（基礎コンクリート部）	B	m^2		「第１編（共通編）４．２型枠工」参照
鉄筋工（基礎コンクリート部）	B	t		「第１編（共通編）４．３．１鉄筋工」参照
基礎材（基礎コンクリート部）	B	m^2		「第１編（共通編）９．１基礎・裏込砕石工」参照

項目	3 次元 モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
コンクリート（基礎コンクリート部）	A	m^3		「第１編（共通編）４．１コンクリート工」参照
型枠（基礎コンクリート部）	B	m^2		「第１編（共通編）４．２型枠工」参照
鉄筋工（基礎コンクリート部）	B	t		「第１編（共通編）４．３．１鉄筋工」参照
基礎材（基礎コンクリート部）	B	m^2		「第１編（共通編）９．１基礎・裏込砕石工」参照

項　目	ロ　ス　率
発泡スチロール	＋０．０４

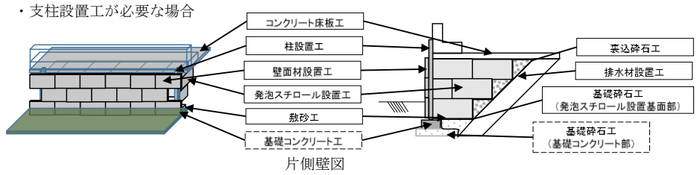
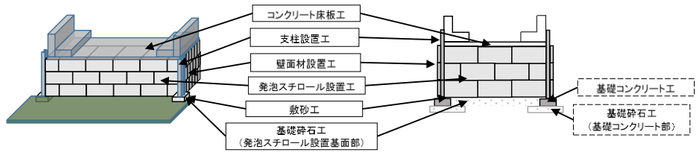
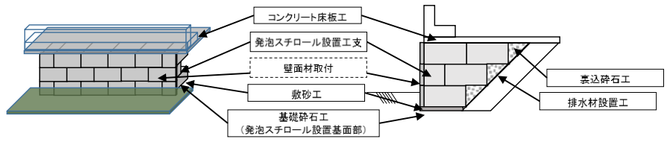
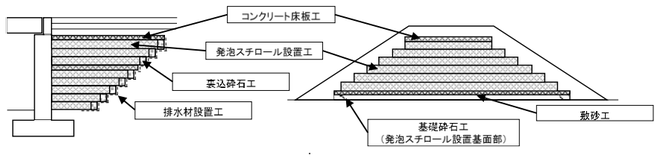
項　目	数　量
緊結金具	２．３

項　目	数　量
緊結金具	２．３

積算上の注意事項		（控え頁） 4／6

工　　種	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

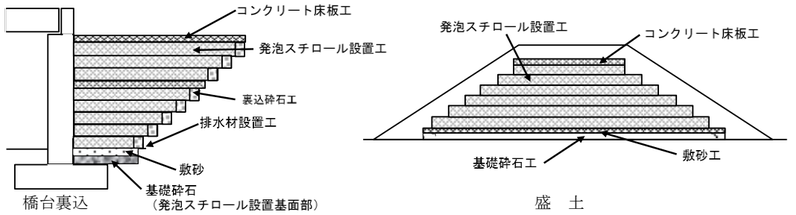
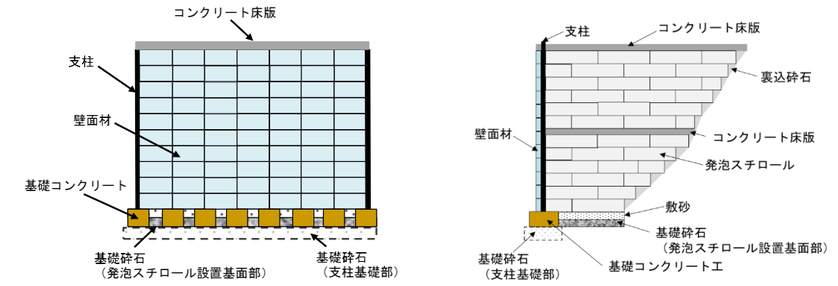
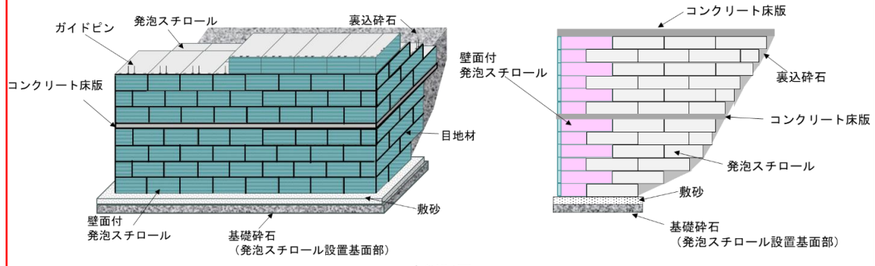
改 正 理 由	一部改正	改　正 現　行	

現　　行	改　　正	備　　考
（６）裏込砕石（軽量盛土）は、設計数量を算出する。 （７）付帯工の割合は下式にて算出する。 付帯工の割合　＝　裏込砕石工の盛土高６ｍを超える部分の設計量（ｍ）／裏込砕石工全体の設計量（ｍ³） 設計量（ｍ³）：ロスを含まない数量 **５．参考図** （１）壁面材有り ・支柱設置工が必要な場合  片側壁図  両側壁図 ・支柱設置工が必要無い場合  壁面材一体型 （２）壁面材無し  1-3-5	前頁から移動 （４）支柱結合アンカー（材料費）は、規格ごとにコンクリート床板体積当りの必要本数（本/ｍ³）を算出する。 （５）支柱（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。 （６）壁面材（材料費）は、壁面固定金具を含み、規格ごとに壁面面積当りの必要数量（枚/ｍ²及び個/ｍ²）を算出する。 （７）裏込砕石（軽量盛土）は、設計数量を算出する。 （８）付帯工の割合は下式にて算出する。 付帯工の割合＝　裏込砕石工の盛土高上端から下方向に６ｍを超える部分の設計量（ｍ）／裏込砕石工全体の設計量（ｍ³） 設計量（ｍ³）：ロスを含まない数量 次頁へ移動	**記載の変更**

積算上の注意事項		（控え頁） 5／6

工　種	発泡スチロールを用いた超軽量盛土工

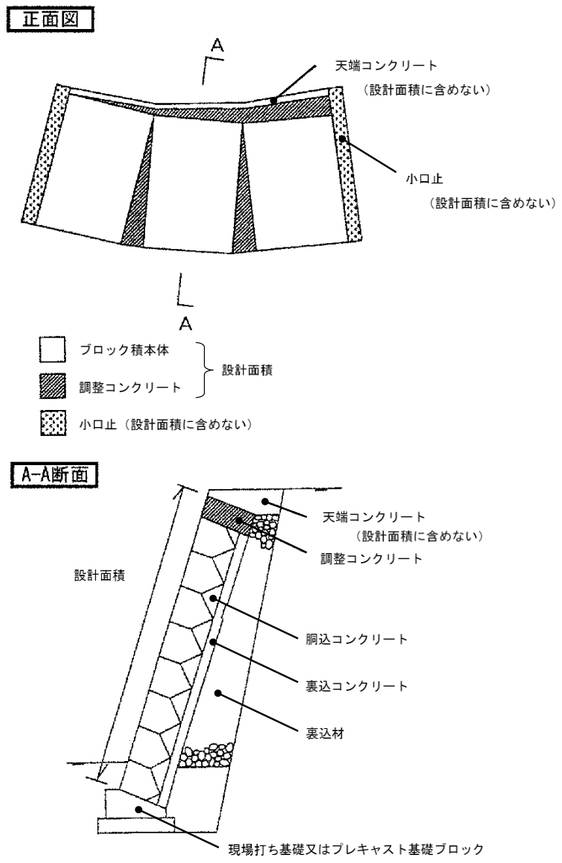
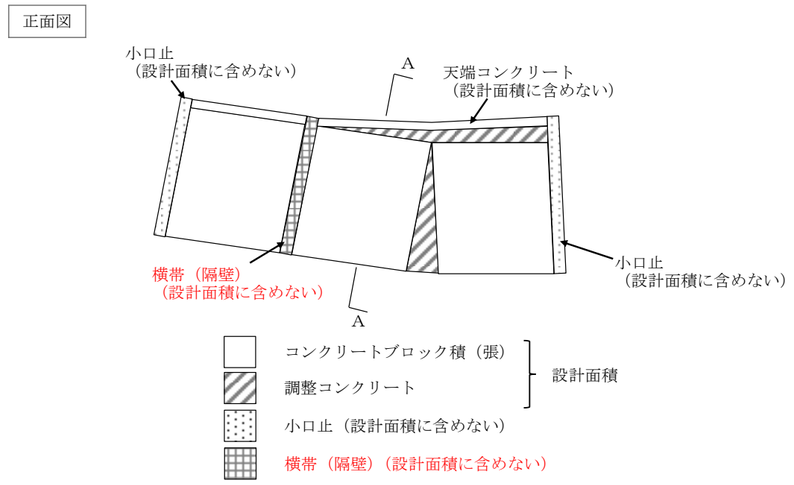
改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
前頁から移動 →	**５．参考図** ５－１．発泡スチロールのみ  ５－２．支柱・壁面材設置有り  片側壁図 ５－３．簡易な壁体構造の壁面材有り  片側壁図	**記載の変更**

積算上の注意事項		（控え頁） 6／6

工　　種	コンクリート積(張)工

改 正 理 由	一部改正	改　正 現　行	

現　　行	改　　正	備　　考
4．参考図 （1）調整コンクリート・小口止・天端コンクリート 	**4．参考図** （1）調整コンクリート・小口止・横帯（隔壁）・天端コンクリート  現行どおり	**記載の追加**

1-5-18

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　　種	粉体噴射攪拌(DJM)工法

改 正 理 由	廃止	改　正 現　行	

現　　行	改　　正	備　　考

8．2　粉体噴射撹拌工（DJM工法）

1．適用

粘性土、砂質土、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行う粉体噴射撹拌工（改良材がセメント系及び石灰系の場合）に適用する。

2．数量算出項目

杭施工本数、移設回数、軸間変更回数を区分ごとに算出する。

3．区分

区分は、現場制約の有無、施工方法、打設長、杭長、規格、改良材使用量とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

区分 / 項目	BIM/CIMモデル	属性情報								
		現場制約の有無	施工方法	打設長	杭長	規格	改良材使用量	単位	数量	備考
粉体噴射撹拌	B	○	－	○	○	○	○	本		
粉体噴射撹拌（移設）	B	－	○	－	－	－	－	回		
粉体噴射撹拌（軸間変更）	B	－	－	－	－	－	－	回		

BIM/CIMによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注）１．２軸施工の１日当り杭施工本数は、１軸当り１本として計上する。

　　２．バックホウによる先掘が必要な場合は、別途算出する。

（2）施工方法区分

施工方法による区分は、以下のとおりとする。

①単軸施工

②２軸施工

削除

廃止

積算上の注意事項		（控え頁） 1／3

工　　種	粉体噴射攪拌(DJM)工法

改 正 理 由	**廃止**	改　正 現　行	

現　　行	改　　正	備　　考
（３）現場制約の有無、打設長、杭長区分 杭施工本数を、打設長（空打部長さ＋杭長）及び杭長ごとに区分して算出する。 施工本数は、杭間の移動、位置決め、貫入、引抜き（改良材噴射）までの一連の作業のものである。	**削除**	**廃止**

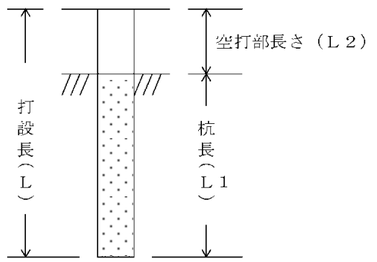
現場制約の有無	打設長	杭長
有り	３ｍ超え６ｍ未満	２ｍ未満
		２ｍ以上３ｍ未満
		３ｍ以上４ｍ未満
		４ｍ以上５ｍ未満
		５ｍ以上６ｍ未満
	６ｍ以上１０ｍ未満	４ｍ以上５ｍ未満
		５ｍ以上６ｍ未満
		６ｍ以上７ｍ未満
		７ｍ以上８ｍ未満
		８ｍ以上９ｍ未満
		９ｍ以上１０ｍ未満
	１０ｍ以上１４ｍ未満	８ｍ以上９ｍ未満
		９ｍ以上１０ｍ未満
		１０ｍ以上１２ｍ未満
		１２ｍ以上１４ｍ未満
	１４ｍ以上１７ｍ未満	１２ｍ以上１４ｍ未満
		１４ｍ以上１５ｍ未満
		１５ｍ以上１７ｍ未満
	１７ｍ以上２０ｍ以下	１５ｍ以上１７ｍ未満
		１７ｍ以上２０ｍ以下

現場制約の有無	打設長	杭長
無し	３ｍ超え６ｍ未満	２ｍ未満
		２ｍ以上３ｍ未満
		３ｍ以上４ｍ未満
		４ｍ以上５ｍ未満
		５ｍ以上６ｍ未満
	６ｍ以上１０ｍ未満	４ｍ以上５ｍ未満
		５ｍ以上６ｍ未満
		６ｍ以上７ｍ未満
		７ｍ以上８ｍ未満
		８ｍ以上９ｍ未満
		９ｍ以上１０ｍ未満
	１０ｍ以上１５ｍ未満	８ｍ以上９ｍ未満
		９ｍ以上１０ｍ未満
		１０ｍ以上１２ｍ未満
		１２ｍ以上１４ｍ未満
		１４ｍ以上１５ｍ未満
	１５ｍ以上２０ｍ未満	１２ｍ以上１４ｍ未満
		１４ｍ以上１５ｍ未満
		１５ｍ以上１７ｍ未満
		１７ｍ以上２０ｍ以下
	２０ｍ以上２７ｍ未満	１７ｍ以上２０ｍ以下
		２０ｍ以上２３ｍ未満
		２３ｍ以上２７ｍ未満
	２７ｍ以上３３ｍ以下	２３ｍ以上２７ｍ未満
		２７ｍ以上３２ｍ未満
		３２ｍ以上３３ｍ以下

積算上の注意事項		（控え頁） 2／3

工　種	粉体噴射攪拌(DJM)工法

改正理由	廃止	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
（４）規格区分 粉体噴射撹拌工の改良材の種類とする。 （５）改良材使用量区分 １）改良材使用量を杭施工本数ごとに区分して算出する。また、杭長１ｍ当り改良材使用量についても算出する。 改良材は、セメント系、石灰系を標準とし、現場条件により決定する。なお、改良材のロス（損失＋杭頭・着底部処理を含む）を含んでいるので、改良材使用量は、実数量（ロスによる割増をしない数量）とする。 ２）改良材の杭一本当り使用量は、次式により算出する。 Ｖ＝ｖ×Ｌ1 Ｖ　：杭一本当り改良材使用量（ｔ／本） ｖ　：杭長１ｍ当り改良材使用量（ｔ／ｍ） Ｌ1：杭長　　（ｍ） **４．数量算出方法** 数量算出方法は、「第１章（共通編）１章基本事項」による。 **５．参考図（施工図）** （施工図）  	→ **削除**	**廃止**

積算上の注意事項		（控え頁） 3／3

工　種	鋼矢板工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

9．2　鋼矢板工

1．適用

構造物及び護岸の基礎工事における鋼矢板工に適用する

2．数量算出項目

鋼矢板工の延長、枚数、質量を区分ごとに算出する。

3．区分

区分は、工種、規格、矢板長とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

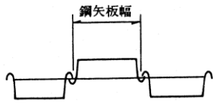
項目＼区分	BIM/CIMモデル	属性情報					
		工種	規格	矢板長	単位	数量	備考
延長	Ⅱ	○	○	○	m		
枚数	Ⅱ				枚		
質量	Ⅱ				t		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、鋼構造を参考とする

（2）規格及び矢板長区分
　矢板の材質、型式、１枚当り長さごとに区分して算出する。

4．数量算出方法
数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

（1）施工枚数は、鋼矢板の中心線の長さを１枚当りの幅で除した値とし、小数以下の端数は切上げて整数にまとめるものとする。
　異型矢板及び継矢板は組数を算出し、施工略図を示すこと。



◎　鋼矢板の質量算出例
　施工延長　Ｌ＝２３．６ｍ、　Ⅲ型　Ｈ＝１０ｍ　の場合

工事数量総括表　２３ｍ
積　　算　　３５．４ｔ

［２３．６÷０．４＝５９
５９枚×０．０６ｔ/ｍ　×１０＝　３５．４ｔ］

改正

現行どおり

3．区分

区分は、工種、作業区分、施工場所、規格、矢板長、Ｎ値、継施工の有無とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

区分＼項目	3次元モデル	属性情報								
		工種	作業区分	施工場所	規格	矢板長	Ｎ値	継施工の有無	単位	数量	備考
延長	Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	m		
枚数	Ⅱ								枚		
質量	Ⅱ								t		

3次元モデルによる数量算出方法は、鋼構造を参考とする

現行どおり

備考

記載の追加･変更

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　種	場所打杭工、深礎工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考
９．４　場所打杭工、深礎工	現行どおり	
１．適用 土木構造物の場所打杭工、深礎杭工に適用する。		
２．数量算出項目 場所打杭、深礎杭の数量を区分ごとに算出する。		
３．区分 区分は、構造物、杭種、杭径、杭長とする。		
（１）数量算出項目および区分一覧表 １）場所打杭……別紙―１参照 ２）深礎杭　……別紙―２参照 BIM/CIM モデルによる数量算出は、場所打杭「Ａ」、深礎杭「Ｉ」を適用する。また、別表の内容は属性情報に付与する	3 次元モデルによる数量算出は、場所打杭「Ａ」、深礎杭「Ｉ」を適用する。また、別表の内容は属性情報に付与する	記載の変更
４．数量算出方法 数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 （１）全回転式オールケーシング工 別紙－１の数量のほか下記の項目について算出する １）土質別の掘削長 杭打込長の最小単位は、０．１ｍを標準とする。 土質による区分は、以下の通りとする。	現行どおり	
土質 ― レキ質土、粘性土、砂及び砂質土 岩塊・玉石、軟岩Ⅰ 軟岩Ⅱ 硬岩Ⅰ・中硬岩	土質 ― レキ質土、粘性土、砂及び砂質土 岩塊・玉石~~、軟岩Ⅰ~~ 軟岩Ⅰ 軟岩Ⅱ 中硬岩 硬岩Ⅰ~~・中硬岩~~	記載の変更
２）コンクリート量 Ｑ＝π／４　×Ｄ^2×Ｌ Ｑ：杭１本当りのコンクリート使用量‥（ｍ^3/本） Ｄ：設計杭径‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥（ｍ） Ｌ：設計杭長‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥（ｍ） ３）杭頭処理取壊コンクリート量 Ｑ＝π／４　×Ｄ^2×Ｌ Ｑ：杭頭処理取壊コンクリート量‥‥‥（ｍ^3/本） Ｄ：設計杭径‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥（ｍ） Ｌ：設計杭頭処理延長‥‥‥‥‥‥‥‥（ｍ）	現行どおり	
1-9-9		

積算上の注意事項		（控え頁） 1／2

工　種	場所打杭工、深礎工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
（2）アースオーガ・硬質地盤用アースオーガ工 別紙－１の数量のほか下記の項目について算出する。 1）土質別の掘削長及び土質係数 杭打込長の最小単位は、０．１ｍを標準とする。 土質による区分は、以下の通りとする。 土質 ― 土（レキ質土、粘性土、砂及び砂質土） 岩塊玉石 軟岩（Ⅰ）、軟岩（Ⅱ） 土質係数は掘削する土質毎の係数を加重平均して算出する。なお土質係数は、小数第２位を四捨五入して小数第１位とする。 $\alpha = \dfrac{(\alpha 1 \times L 1) + (\alpha 2 \times L 2) + \cdots\cdots\cdots}{L 1 + L 2 + \cdots\cdots\cdots}$ αｎ：各土質の土質係数（次表） Ｌｎ：各土質の掘削長（ｍ） 土質係数 	N値＼土質	土	岩塊 玉石	軟岩Ⅰ 軟岩Ⅱ
---	---	---	---
２０未満	１．０	３．２	１．８
２０以上	１．１		| 2）アースオーガによるモルタル杭 Ｑ＝π／４ ×Ｄ^2×Ｌ×10 Ｑ：杭１０本当りのモルタル使用量…… （ｍ^3／１０本） Ｄ：杭径…… （ｍ） Ｌ：打設長…… （ｍ） 3）鉄筋かご等 鉄筋かご等は、下表のとおり区分して算出する |	長さ（ｍ）	質量（ｔ）
鉄筋かご	○	○
Ｈ形鋼	○	○	 1-9-10	→ **削除**	**廃止**

積算上の注意事項		（控え頁） 2／2

工　種	旧橋撤去

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考
（2）クレーン規格、相吊クレーン規格による区分は、以下のとおりとする。 クレーン規格 相吊クレーン規格 ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型２５ｔ吊 ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型３５ｔ吊 ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型４５ｔ吊 ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型５０ｔ吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型１００ｔ吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型１２０ｔ吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型１６０ｔ吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型２００ｔ吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型３６０ｔ吊	（2）クレーン規格、相吊クレーン規格による区分は、以下のとおりとする。 クレーン規格 相吊クレーン規格 ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型２５ｔ吊 ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型３５ｔ吊 ~~ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型４５ｔ吊~~ ラフテレーンクレーン排出ガス対策型油圧伸縮ジブ型５０ｔ吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型１００ｔ吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型１２０ｔ吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型１６０ｔ吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型２００ｔ吊 トラッククレーン油圧伸縮ジブ型３６０ｔ吊	**記載の削除**
（3）相吊クレーンの有無による区分は、以下のとおりとする。 相吊クレーンの有無 有り 無し	**現行どおり**	
（4）ＤＩＤ区間の有無による区分は、以下のとおりとする。 ＤＩＤ区間の有無 無し 有り		
関連数量算出項目	関連数量算出項目	**記載の変更**

区分＼項目	BIM/CIMモデル	属性情報 単位	数量	備考
足場・防護・ベント等	Ⅱ			「第３編（道路編）４．４鋼橋架設工及び４．５仮設工」参照
現場発生品運搬	D	t		必要な場合別途計上

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、鋼構造およびコンクリート構造を参考とする

区分＼項目	3次元モデル	属性情報 単位	数量	備考
足場・防護・ベント等	Ⅱ			「第３編（道路編）４．４鋼橋架設工及び４．５仮設工」参照
現場発生品運搬	D	t		必要な場合別途計上

3次元モデルによる数量算出方法は、鋼構造およびコンクリート構造を参考とする

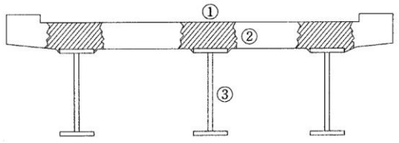
４．数量算出方法

数量算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」による。

（参考）

ブロック施工（床版分割施工）とは，コンクリート殻を桁下に落とすことができず，ある程度のブロック状に１次破砕後，鉄筋をガス切断したのちクレーン等でブロックを吊り上げて，撤去する工法である。

なお，「床版１次破砕・ブロック塊撤去」から「桁１次切断・撤去」の作業順序は，下記のとおりである。



作業順は，①の斜線部を大型ブレーカで１次破砕後，鉄筋をガス切断，②のブロック塊をホイールクレーンで撤去し，③の桁材切断・撤去を行う。

現行どおり

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　種	締切排水工

改正理由	一部改正	改正 現行	

11．2　締切排水工

1．適用範囲

仮設工のうち河川、道路、砂防工事などの水中締切、地中締切の排水工事に適用するものとし、ダム本体工事などの大規模工事には適用しない。

2．数量算出項目

締切排水の排水量を区分ごとに算出する。

3．区分

区分は全揚程とする。

（1）数量算出項目一覧表

項　目	BIM/CIMモデル	属性情報			
		全揚程	単位	数量	備　考
締切排水量	B	１５m以下	m^3／h		
	B	１５mを超えるもの	m^3／h		全揚程（m）も算出する

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

1-11-7

（1）数量算出項目一覧表

項　目	3次元モデル	属性情報			
		全揚程	単位	数量	備　考
締切排水量	B	１０m以下	m^3／h		
	B	１０mを超え１５m以下	m^3／h		
	B	１５mを超えるもの	m^3／h		全揚程（m）も算出する

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

記載の追加・変更

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　種	雪寒仮囲い工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考
11．6．2　雪寒仮囲いエ	→ **現行どおり**	**記載の変更**
1．適用 積雪寒冷地の冬期における土木構造物の施工において，平均設置高 30m以下の「雪寒仮囲い」の設置及び撤去に適用する。なお，Ｐタイプで設置高４ｍを超える場合，小型構造物には適用しない。	**1．適用** 積雪寒冷地の冬期における土木構造物の施工において、平均設置高 15m以下の「雪寒仮囲い」の設置及び撤去に適用する。~~なお，Ｐタイプで設置高４ｍを超える場合，小型構造物には適用しない。~~	
2．数量算出項目 雪寒仮囲いの面積を区分毎に算出する。	**2．数量算出項目** 雪寒仮囲いの面積を区分毎に算出し、特殊養生は対象とするコンクリート体積を算出する。	
3．区分 区分は，雪寒仮囲いの構造形式とする。	**3．区分** 区分は、雪寒仮囲いの構造形式とする。	
（１）数量算出項目一覧表	（１）数量算出項目一覧表	

区分／項目	BIM/CIM モデル	属性情報			
		構造形式	単位	数量	備考
雪寒仮囲い	B	○	m^2		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

区分／項目	3 次元モデル	属性情報			
		構造形式	単位	数量	備考
雪寒仮囲い	B	○	m^2		

3 次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

（２）構造形式区分
下記のとおり，構造形式ごとに区分して算出する。
①Ｐタイプ
②Ｗタイプ
③ＰＷタイプ

※さらに，「②Ｗタイプ，③ＰＷタイプ」については，枠組足場と枠組足場以外で数量を区分すること。

（２）構造形式区分
下記のとおり、構造形式ごとに区分して算出する。
①Ｐタイプ
②Ｗタイプ
③ＰＷタイプ

※さらに、「②Ｗタイプ、③ＰＷタイプ」については、枠組足場と枠組足場以外で数量を区分すること。

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　種	断面修復工(左官工法)

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

12．3　断面修復工(左官工法)

1．適用

コンクリート構造物の断面修復における１構造物当りの左官作業に適用する。

2．数量算出項目

断面補修工（左官工法）を区分ごとに算出する。

3．区分

区分は、鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目＼区分		BIM/CIMモデル	属性情報				
			規格	鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無	単位	数量	備考
断面補修工(左官工法)	修復延べ体積	A		○	m^3		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）１．現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。
　　２．コンクリート殻の積込み・運搬及び処分費は別途計上する。
　　３．足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。

4．数量算出方法

数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるものとする。

改正

現行どおり

2．数量算出項目

断面補修工（左官工法）の修復延べ体積、コンクリート殻積込・運搬の数量を区分ごとに算出する。

3．区分

区分は、鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無、ＤＩＤ区間の有無、運搬距離とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目＼区分		3次元モデル	属性情報						
			~~規格~~	鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無	ＤＩＤ区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考
断面補修工(左官工法)	修復延べ体積	A		○			m^3		
	コンクリート殻積込・運搬	D			○	○	m^3		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）１．現場条件により特殊な養生が必要な場合は、別途考慮する。
　　２．コンクリート殻の~~積込み・運搬及び~~処分費は別途計上する。
　　３．足場等については、現場条件を考慮の上、別途計上する。

現行どおり

備考

記載の追加

記載の削除

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　種	排水材設置工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考

13章　排水材設置工

13．1　排水材設置工

1．適用

構造物（橋台、擁壁、ボックスカルバート等）埋戻し背面のコンクリート面に帯状の排水材（全透水型（立体網状体及びメッシュチューブ型等））を設置する作業に適用する。

2．数量算出項目

排水材設置工の延長を区分ごとに算出する。

3．区分

区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

区分／項目	BIM/CIM モデル	属性情報 幅 厚さ	単位	数量	備考
排水材設置工	B	○	m		

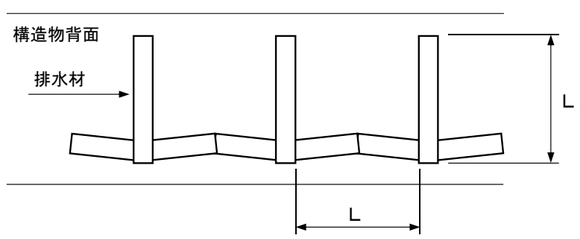
BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注）1．排水材の設置方法は、コンクリート釘、接着剤、固定金具等を用いて固定する方法を標準とする。
2．固定金具を用いて固定する金具材料の材料費は、必要に応じて別途計上する。
3．水抜きパイプ等に接続する継手材料の材料費及び施工費は、必要に応じて別途計上する。

4．数量算出方法

数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

（1）施工延長（L）のとり方は、下図のとおりとする。



1-13-2

→

13．1　排水材設置工（構造物背面排水材）

記載の変更

現行どおり

（1）数量算出項目及び区分一覧表

区分／項目	3 次元モデル	属性情報 幅 厚さ	単位	数量	備考
構造物背面排水材設置	B	○	m		

3 次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

記載の変更

現行どおり

積算上の注意事項		（控え頁） 1／3

工　種	排水材設置工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
現行なし →	**13．2　排水材設置工（水平排水層）** **1．適用** 盛土（路体盛土等）内の浸透水の排除を目的に設置する帯状の排水材（帯状シート・全透水型（立体網状体等））の設置及びフィルター材（砕石等）を敷設する作業に適用する。 なお、帯状の排水材の設置は水平排水材、フィルター材（砕石等）の敷設はフィルター層とする。 **2．数量算出項目** 水平排水材設置工の延長、フィルター層敷設工の体積を区分ごとに算出する。 **3．区分** 区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。 （1）数量算出項目及び区分一覧表	記載の追加

区分 / 項目	BIM/CIM モデル	属性情報 幅 厚さ	単位	数量	備考
水平排水材設置	B	○	m		
フィルター層敷設	B	○	m３		

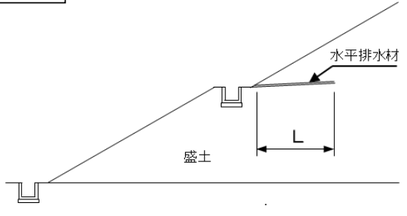
BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）水平排水材の設置は、固定方法に関わらず使用できる。

（2）フィルター層の区分
フィルター材の種類、厚さごとに区分し算出する。

4．数量算出方法
数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

（1）施工延長（L）のとり方は、下図のとおりとする。
なお、施工延長（L）は、斜距離とする。

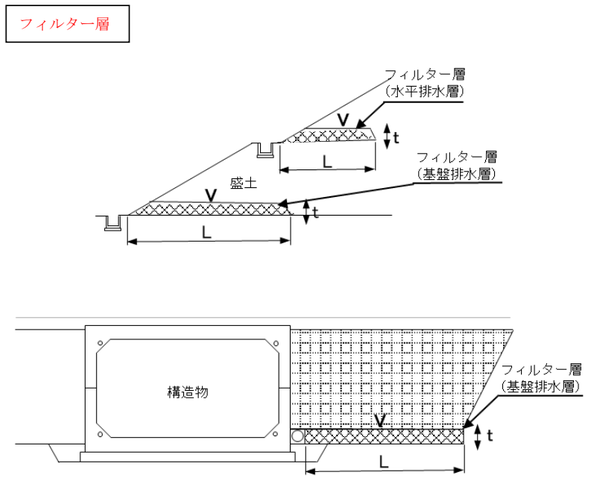
水平排水材



積算上の注意事項		（控え頁） 2／3

工　　種	排水材設置工

改 正 理 由	新規	改　正 現　行	

現　　行	改　　正	備　　考
現行なし →	フィルター層 	記載の追加

積算上の注意事項		（控え頁） 3／3

工　種	消波根固めブロック工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
1章　護岸根固め工		
1．1　消波根固めブロック工	→ 現行どおり	
1．1．1　消波根固めブロック工		
1．適用 河川、砂防、海岸、道路工事に使用する１１．０ｔ以下（実質量とする）の消波根固めブロックの現地製作，陸上よりの敷設工事に適用する。	**1．適用** 河川、砂防、海岸、道路工事に使用する１１．０ｔ／個以下（実質量とする）の消波根固めブロックの現地製作，陸上よりの敷設工事に適用する。	**記載の変更**
2．数量算出項目 消波根固めブロックの個数を区分ごとに算出する。	現行どおり	
3．区分 区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。	現行どおり	
（1）数量算出項目及び区分一覧表		
①消波根固めブロック製作	①消波根固めブロック製作	**記載の変更**

区分／項目	BIM/CIM モデル	属性情報								
		ﾌﾞﾛｯｸ規格	型枠の種類	生ｺﾝｸﾘｰﾄ規格	1個当りｺﾝｸﾘｰﾄ設計量	1個当り型枠面積	養生工の種別	単位	数量	備考
消波根固めﾌﾞﾛｯｸ製作	A	○	○	○	○	○	○	個		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

区分／項目	3次元モデル	属性情報								
		ﾌﾞﾛｯｸ規格	型枠の種類	生ｺﾝｸﾘｰﾄ規格	1個当りｺﾝｸﾘｰﾄ設計量	1個当り型枠面積	養生工の種別	単位	数量	備考
消波根固めﾌﾞﾛｯｸ製作	A	○	○	○	○	○	○	個		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

②消波根固めブロック横取り、積込、荷卸

区分／項目	BIM/CIM モデル	属性情報				
		ﾌﾞﾛｯｸ規格	ｸﾚｰﾝ機種	単位	数量	備考
消波根固めﾌﾞﾛｯｸ横取り	B	○	○	個		
消波根固めﾌﾞﾛｯｸ積込	B	○	○	個		
消波根固めﾌﾞﾛｯｸ荷卸	B	○	○	個		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）横取り作業は、クレーンによるブロックの移動距離５０ｍ未満の範囲とする。

②消波根固めブロック横取り、積込み、荷卸

区分／項目	3次元モデル	属性情報				
		ﾌﾞﾛｯｸ規格	ｸﾚｰﾝ規格	単位	数量	備考
消波根固めﾌﾞﾛｯｸ横取り	B	○	○	個		
消波根固めﾌﾞﾛｯｸ積込み	B	○	○	個		
消波根固めﾌﾞﾛｯｸ荷卸	B	○	○	個		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）~~1．~~クレーン規格は、ブロック実質量、作業範囲、地盤等の現場条件に応じて選定する。

積算上の注意事項	（控え頁） 1／2

工　種	消波根固めブロック工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

③消波根固めブロック据付

区分／項目	BIM/CIM モデル	属性情報							
		ﾌﾞﾛｯｸ規格	据付場所	ﾌﾞﾛｯｸ１０個当り連結金具設置数量	据付方法	ｸﾚｰﾝ機種	単位	数量	備考
消波根固めﾌﾞﾛｯｸ据付	B	○	○	実数	○	○	個		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）据付け（水中）とは、据付作業の内、玉外し作業又はブロックの据付位置の確認作業を水中で行う場合に適用する。

④消波根固めブロック運搬

区分／項目	BIM/CIM モデル	属性情報						
		ﾌﾞﾛｯｸ規格	作業区分	ﾄﾗｯｸ１台当りﾌﾞﾛｯｸ積載個数	ﾄﾗｯｸ１台当り運搬距離	単位	数量	備考
消波根固めﾌﾞﾛｯｸ運搬	B	○	○	○	○	個		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）１．運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。片道運搬距離が１５ｋｍを超える場合は、別途考慮すること。

４．数量算出方法

数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

（１）乱積

乱積の場合は、横断面図より空体積を計算し、コンクリートブロックの空隙率を考慮し、次式より算出する。

$$N = \frac{V\ (1 - a)}{v}$$

Ｎ＝個数（個）
Ｖ＝空体積（m^3）
ｖ＝１個当り空体積（m^3／個）
ａ＝空隙率

（２）層積

層積における設置間隔については、ブロックメーカーのカタログによるものとする。

（３）トラック１台当りブロック積載個数（ｎ）は、ブロックの形状、寸法及びトラック等の荷台寸法、積載質量を考慮して決定するが、一般の場合は、下記による。

ｎ＝Ｘ／Ｗ（小数以下切り捨て）

Ｘ　：　トラック等の積載質量　　（ｔ）
Ｗ　：　ブロック１個当りの質量（実質量）　　（〃）

改正

③消波根固めブロック据付け

区分／項目	3 次元モデル	属性情報							
		ﾌﾞﾛｯｸ規格	据付場所	ﾌﾞﾛｯｸ 10 個当り連結金具設置数量	据付方法	ｸﾚｰﾝ規格	単位	数量	備考
消波根固めﾌﾞﾛｯｸ据付け	B	○	○	実数	○	○	個		

3 次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）１．据付場所は、陸上と水中の区分より選定する。
２．据付け（水中）とは、据付作業の内、玉外し作業又はブロックの据付位置の確認作業を水中で行う場合に適用する。
３．クレーン規格は、ブロック実質量、作業範囲、地盤等の現場条件に応じて選定する。

④消波根固めブロック運搬

区分／項目	3 次元モデル	属性情報						
		ﾌﾞﾛｯｸ規格	作業区分	ﾄﾗｯｸ１台当りﾌﾞﾛｯｸ積載個数	ﾄﾗｯｸ１台当り運搬距離	単位	数量	備考
消波根固めﾌﾞﾛｯｸ運搬	B	○	○	○	○	個		

3 次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）~~１．~~運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。片道運搬距離が１５ｋｍを超える場合は、別途考慮すること。

現行どおり

備考

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 2／2

工　種	護岸基礎ブロック工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

1．5 護岸基礎ブロック工

1．適用

河川における護岸のプレキャスト基礎ブロック（ブロック製品長２ｍ、３．３ｍ、４ｍ、５ｍ）の施工に適用する。

2．数量算出項目

基礎ブロックの延長、中詰材の体積を区分ごとに算出する。

3．区分

区分は、中詰材の種類、ブロック製品長、ブロック下幅、基礎砕石の有無、生コンクリート規格とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

区分／項目	BIM/CIM モデル	属性情報							
		中詰材の種類	ﾌﾞﾛｯｸ製品長	ﾌﾞﾛｯｸ下幅	基礎砕石の有無	生ｺﾝｸﾘｰﾄ規格	単位	数量	備考
プレキャスト基礎ブロック	B	○	○	○	○	○	m		
中詰コンクリート打設	A	×	×	×	×	○	m^3		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

（2）中詰材区分

中詰材の種類の区分は、下記のとおりとする。

- 中詰材の種類
  - コンクリート
  - その他または無し

（3）ブロック製品長区分

中詰材の種類ごとに区分して算出する。

- ブロック製品長（中詰材の種類がコンクリートの場合）
  - ２，０００ｍｍ
  - ３，３００ｍｍ
  - ５，０００ｍｍ
- ブロック製品長（中詰材の種類がその他または無しの場合）
  - ２，０００ｍｍ
  - ３，３００ｍｍ
  - ４，０００ｍｍ
  - ５，０００ｍｍ

改正

1．5 護岸基礎ブロック工

1．適用

河川における護岸のプレキャスト基礎ブロック（ブロック~~製品~~長 1,000㎜ 以上 5,000㎜ 以下，ブロック 質量 4,000kg/個以下）の据付及び中詰コンクリート打設の施工に適用する。

2．数量算出項目

基礎ブロックの延長、中詰材の体積を区分ごとに算出する。

3．区分

区分は、ブロック規格・仕様（高さ、幅、質量、製品長等）、作業範囲（据付作業半径、据付高さ）、生コンクリート規格、養生工の有無とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

区分／項目	3 次元モデル	属性情報						
		ブロック規格・仕様	作業範囲	生ｺﾝｸﾘｰﾄ規格	養生工の有無	単位	数量	備考
護岸基礎ブロック据付	B	○	○	×	×	m		
中詰ｺﾝｸﾘｰﾄ打設	A	×	○	○	○	m^3		

3 次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。

注）~~1．~~中詰材がコンクリート以外の場合は、中詰材を別途考慮する。

~~（2）中詰材区分~~

~~中詰材の種類の区分は、下記のとおりとする。~~

- ~~中詰材の種類~~
  - ~~コンクリート~~
  - ~~その他または無し~~

~~（3）ブロック製品長区分~~

~~中詰材の種類ごとに区分して算出する。~~

- ~~ブロック製品長（中詰材の種類がコンクリートの場合）~~
  - ~~２，０００ｍｍ~~
  - ~~３，３００ｍｍ~~
  - ~~５，０００ｍｍ~~
- ~~ブロック製品長（中詰材の種類がその他または無しの場合）~~
  - ~~２，０００ｍｍ~~
  - ~~３，３００ｍｍ~~
  - ~~４，０００ｍｍ~~
  - ~~５，０００ｍｍ~~

備考

記載の変更

記載の削除

積算上の注意事項		（控え頁） 1／2

工　　種	護岸基礎ブロック工

改 正 理 由	一部改正	改　正 現　行	

現　　行	改　　正	備　　考
（４）ブロック下幅区分 中詰材の種類ごとに区分して算出する。 ブロック製品長（中詰材の種類がコンクリートの場合） ５００㎜以上　６００㎜未満 ６００㎜以上　７００㎜未満 ７００㎜以上　９００㎜未満 ９００㎜以上１，１００㎜未満 １，１００㎜ ブロック製品長（中詰材の種類がその他または無しの場合） ４００㎜以上　５００㎜未満 ５００㎜以上　６００㎜未満 ６００㎜以上　７００㎜未満 ７００㎜以上　９００㎜未満 ９００㎜以上１，１００㎜未満 １，１００㎜	~~（４）ブロック下幅区分~~ ~~中詰材の種類ごとに区分して算出する。~~ ~~ブロック製品長（中詰材の種類がコンクリートの場合）~~ ~~５００㎜以上　６００㎜未満~~ ~~６００㎜以上　７００㎜未満~~ ~~７００㎜以上　９００㎜未満~~ ~~９００㎜以上１，１００㎜未満~~ ~~１，１００㎜~~ ~~ブロック製品長（中詰材の種類がその他または無しの場合）~~ ~~４００㎜以上　５００㎜未満~~ ~~５００㎜以上　６００㎜未満~~ ~~６００㎜以上　７００㎜未満~~ ~~７００㎜以上　９００㎜未満~~ ~~９００㎜以上１，１００㎜未満~~ ~~１，１００㎜~~	**記載の削除**
2-1-11		

積算上の注意事項		（控え頁） 2／2

工　種	グラウトホール工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

4．9　グラウトホール工

1．適用

河川における樋門・樋管のグラウトホールの施工に適用する。

2．数量算出項目

沈下板設置・グラウト管設置、グラウト管、均しコンクリート箱抜用型枠設置撤去・間詰コンクリート打設の数量を算出する。

3．区分

区分は、規格とする。

（1）数量算出項目一覧表

区分／項目	BIM/CIM モデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
沈下板設置・グラウト管設置	B	×	組		
グラウト管（材料費）	B	○	組		
均しコンクリート箱抜用型枠設置撤去・間詰コンクリート打設	B	×	組		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注）グラウト管の１組とは、沈下板及びグラウト管とする。

4．数量算出方法

数量算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」による。

改正

現行どおり

（1）数量算出項目一覧表

区分／項目	3 次元モデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
沈下板設置・グラウト管設置	B	×	組		
グラウト管（材料費）	B	○	組		
均しコンクリート箱抜用型枠設置撤去・間詰コンクリート打設	B	×	組		

3 次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。

注）１．グラウト管の１組とは、沈下板及びグラウト管とする。

２．均しコンクリート箱抜用型枠設置撤去・間詰コンクリート打設の１組当りとはグラウトホール毎とする。

現行どおり

備考

記載の修正

記載の追加

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　種	土工(砂防工)

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

5章　砂防工

5．1　土工

1．適用

砂防工（本ダム、副ダム、床固、帯工、水叩、側壁、護岸）の土工に適用する。

2．数量算出項目

掘削、掘削(ＩＣＴ)、土砂等運搬、積込（ルーズ)、盛土、床掘り、埋戻し、残土処理、法面整形の数量を区分ごとに算出する。

（1）土砂等運搬は、片道の運搬距離を算出する。往路と復路が異なるときは、平均値とする。
また、必要に応じて土量配分図を作成する。

3．区分

区分は、土質、構造物、施工形態、施工幅とする。
土砂等運搬の区分は、運搬距離、土質とする。

（1）数量算出項目および区分一覧表

項目＼区分		BIM/CIMモデル	属性情報							
			運搬距離	土質	構造物	施工形態	施工幅	単位	数量	備考
土工	掘削	土構造	×	○	×	○	×	m^3		
	土砂等運搬	土構造	○	○	×	×	×	m^3		
	積込（ルーズ）	土構造	×	○	×	×	×	m^3		
	盛土	土構造	×	○	○	○	○	m^3		
土工作業	床掘り	土構造	×	○	○	○	×	m^3		
	埋戻し	土構造	×	○	○	○	○	m^3		
残土処理		土構造	×	○	○	○	×	m^3		
整形法面	掘削部	土構造	×	○	○	○	×	m^2		
	盛土部	土構造	×	○	○	○	×	m^2		

（2）土質区分

土質による区分は、「第１編（共通編）２章土工２．１土工」による。
なお、破砕を要する転石の場合は、粒径０．５ｍ未満・以上で区分して算出する。

（3）構造物区分

構造物ごとに区分して算出する。

2-5-2

改正

現行どおり

2．数量算出項目

掘削、掘削(ＩＣＴ)、土砂等運搬、積込（ルーズ)、盛土、盛土(ＩＣＴ)、床掘り、床堀り(ＩＣＴ)、埋戻し、残土処理、法面整形、法面整形(ＩＣＴ)の数量を区分ごとに算出する。

（1）土砂等運搬は、片道の運搬距離を算出する。往路と復路が異なるときは、平均値とする。
また、必要に応じて土量配分図を作成する。

3．区分

区分は、土質、構造物、施工形態、施工幅とする。
土砂等運搬の区分は、運搬距離、土質とする。

（1）数量算出項目および区分一覧表

項目＼区分		3次元モデル	属性情報							
			運搬距離	土質	構造物	施工形態	施工幅	単位	数量	備考
土工	掘削	土構造	×	○	×	○	×	m^3		
	土砂等運搬	土構造	○	○	×	×	×	m^3		
	積込（ルーズ）	土構造	×	○	×	×	×	m^3		
	盛土	土構造	×	○	○	○	○	m^3		
土工作業	床掘り	土構造	×	○	○	○	×	m^3		
	埋戻し	土構造	×	○	○	○	○	m^3		
残土処理		土構造	×	○	○	○	×	m^3		
整形法面	掘削部	土構造	×	○	○	○	×	m^2		
	盛土部	土構造	×	○	○	○	×	m^2		

現行どおり

備考

記載の追加

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　種	コンクリート工(砂防工)

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
４．数量算出方法 数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 なお、コンクリート、型枠の数量は、必要に応じて「第１編（共通編）４章コンクリート工」により算出する。 （１）コンクリート 堤体コンクリートについては、一般部と堤冠部を区分し、年度区分の数量が容易に算出出来るようにブロックごと（施工高は１ｍ又は基礎の変化点、延長は止水板位置等を標準とする）にも算出する。 （２）型枠 型枠面積の算出のうち、外部型枠の対象面は各構造物の引き取り対象となる面とする。 ただし、側壁、護岸の裏面及び本体と間詰を同時に施工する場合の間詰の接する面等を除く。 また、内部型枠の対象面は、側壁、護岸の裏面、間仕切り面(日々の打ち止め面）等とする。 （３）足場（キャットウォーク）の適用範囲 １）足場（キャットウォーク）の適用範囲は、型枠の組立、解体用足場を設置する場合とし、基礎地盤より２ｍ上から対象とする。ただし、間詰を施工（本体と同時施工）する場合は、間詰天端より２ｍ上から対象とする。 ２）継続工事で間詰、埋戻、水叩等が完成している場合は、その天端より２ｍ上からを対象とする。	現行どおり	
（４）足場（キャットウォーク）延長 足場延長の算出方法は、足場の高さ方向の標準設置間隔を１．８ｍとして段数を決定し算出する。 〔足場延長算定式〕 $La = \frac{Aa}{1.8}$ Ｌａ：足場延長（ｍ） Ａａ：足場対象面積（m^2） 足場対象面積は垂直投影面積とし、足場の不要となる基礎地盤より２．０ｍ分は控除するものとする。 １．８：足場の上下据付（垂直）間隔（ｍ） （注）足場の不要となる基礎地盤とは、平坦（ｉ＝１／１０以内）が５．０ｍ 以上の箇所（砂防堰堤等上・下流基礎、半川施工部基礎、同時打間詰天端等）、打設ブロック間の下段コンクリート面をいう	（４）足場（キャットウォーク）延長 足場延長の算出方法は、足場の高さ方向の標準設置間隔を１．８ｍとして段数を決定し算出する。 なお、足場の段数が１段のみの場合は構造物の水平方向の平均延長とし、足場の段数が２段以上となる場合は、下記に示す足場延長算定式により算出し、加算する。 現行どおり	記載の追加
（５）水抜暗渠の数量算出 数量は、延長（ｍ）を算出する。ヒューム管の場合の延長は外周下端延長（ｍ）を算出する。 暗渠部のコンクリート控除数量は、ヒューム管の外周面積に中心延長を乗じたものとする。 注）１．コンクリート控除数量は、「第１編（共通編）１章基本事項」による。		

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　種	残存型枠工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

5．3　残存型枠工

1．適用

砂防工事の構造物施工にかかる残存型枠及び残存化粧型枠に適用する。
本工法は、プレキャストのコンクリート二次製品による型枠を使用し、コンクリート打設・養生後の型枠の撤去を必要としない型枠工のことをいう。
また、残存化粧型枠とは意匠を目的とした平面・凹凸面の型枠材のことをいう。

2．数量算出項目

残存型枠、残存化粧型枠の面積、水抜きパイプの延長を区分ごとに算出する。

3．区分

区分は、構造物、規格とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目＼区分	BIM/CIM モデル	属性情報				
		構造物	規格	単位	数量	備　考
残存型枠	B	○	○	m^2		(注)1，2
残存化粧型枠	B	○	○	m^2		(注)1，2
水抜きパイプ	B	○	○	m		※１００m^2当り数量を算出

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
（注）1．平均設置高さ「３０m以下」と「３０m超」に区分し算出する。
なお、「３０m超」の場合はその設置高さを備考欄に明記すること。
2．型枠材の１００m^2当り使用枚数及び1枚当り質量を備考欄に明記する。

（2）構造物区分
構造物ごとに区分して算出する。

（3）規格区分
型枠の規格ごとに区分して算出する。

改正

5．3　残存型枠工

1．適用

砂防工事（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）~~の構造物施工~~に~~かかる~~おける残存型枠及び残存化粧型枠、天端の手摺及び足場（キャットウォーク）に適用する。
~~本工法は、プレキャストのコンクリート二次製品による型枠を使用し、コンクリート打設・養生後の型枠の撤去を必要としない型枠工のことをいう。~~
また、残存型枠とは，意匠性を目的としない型枠材、残存化粧型枠とは意匠を目的とした平面・凹凸面の型枠材のことをいう。

2．数量算出項目

残存型枠、残存化粧型枠の面積、水抜きパイプの延長、天端の手摺、足場（キャットウォーク）の数量を区分ごとに算出する。

現行どおり

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目＼区分	3 次元 モデル	属性情報				
		構造物	規格	単位	数量	備　考
残存型枠	B	○	○	m^2		(注)1，2
残存化粧型枠	B	○	○	m^2		(注)1，2
水抜きパイプ	B	○	○	m		※１００m^2当り数量を算出
天端手摺	B	○	×	m		
足場(ｷｬｯﾄｳｵｰｸ)	B	○	×	m		

3 次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

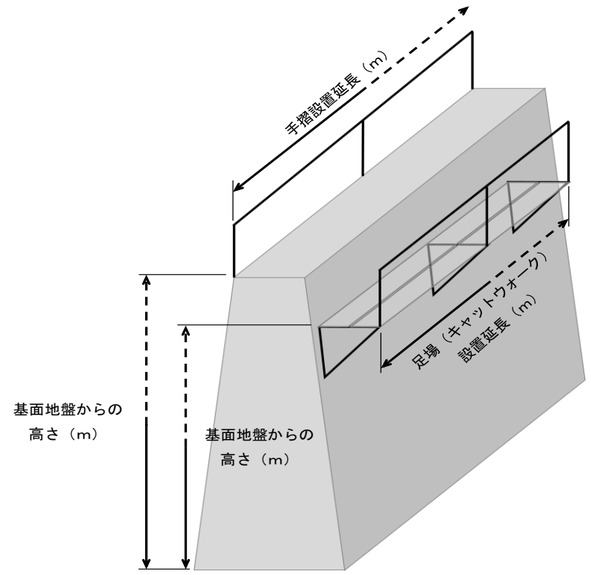
現行どおり

備　考
記載の追加・削除
記載の追加

積算上の注意事項		（控え頁） 1／2

工　種	残存型枠工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
現行なし	**４．数量算出方法** 数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 （１）天端手摺及び足場（キャットウォーク）の適用範囲 天端手摺及び足場（キャットウォーク）の適用範囲は、型枠の組立用足場を設置する場合とし、基礎地盤より２m以上に設置する場合に対象とする。 （２）天端手摺及び足場（キャットウォーク）延長 天端手摺及び足場（キャットウォーク）の設置延長については、下図のとおりとする。 なお、足場（キャットウォーク）を複数段設置する場合は，各段の合計延長を計上する。  図：手摺，足場（キャットウォーク）の設置延長及び高さ	記載の追加

積算上の注意事項		（控え頁） 2／2

工　種	仮締切工(砂防工)

改正理由	新規	改正 現行	

現行	改正	備考
現行なし	**5．4．2　砂防コンクリート仮締切工** **1．適用** 砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）の施工に伴うコンクリート仮締切の設置・撤去に適用する。 **2．数量算出項目** コンクリート、型枠、足場（キャットウォーク）の数量を区分ごとに算出する。 **3．区分** 区分は、規格とする。 （1）数量算出項目及び区分一覧表	**記載の追加**

区分／項目	3次元モデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
コンクリート	A	○	m^3		「第1編（共通編）4．1コンクリート工」参照
型枠	B	○	m^2		「第1編（共通編）4．2型枠工」参照
足場（ｷｬｯﾄｳｵｰｸ）	B	×	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4．数量算出方法

数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

なお、コンクリート、型枠の数量は、「第１編（共通編）４章コンクリート工」により算出する。

（1）足場（キャットウォーク）の適用範囲

足場（キャットウォーク）の適用範囲は、型枠の組立、解体用足場を設置する場合とし、基礎地盤より２ｍ上から対象とする。

積算上の注意事項		（控え頁） 1／2

工　種	仮締切工(砂防工)

改正理由	新規	改正 現行	

現行	改正	備考
現行なし	（２）足場（キャットウォーク）延長 足場延長の算出方法は、足場の高さ方向の標準設置間隔を１．８ｍとして段数を決定し算出する。 なお、足場の段数が１段のみの場合は構造物の水平方向の平均延長とし、足場の段数が２段以上となる場合は、下記に示す足場延長算定式により算出し、加算する。 〔足場延長算定式〕 $Ｌａ＝\frac{Ａａ}{１．８}$ Ｌａ：足場延長（ｍ） Ａａ：足場対象面積（$ｍ^{2}$） 足場対象面積は垂直投影面積とし、足場の不要となる基礎地盤より２．０ｍ分は控除するものとする。 １．８：足場の上下据付（垂直）間隔（ｍ） （注）足場の不要となる基礎地盤とは、平坦（ｉ＝１／１０以内）が５．０ｍ 以上の箇所（砂防堰堤等上・下流基礎、半川施工部基礎、同時打間詰天端等）、打設ブロック間の下段コンクリート面をいう。	記載の追加

積算上の注意事項		（控え頁） 2／2

工　種	かご工(斜面対策)

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
6．4　かご工(斜面対策)	**6．4　かご工(斜面対策)**	
1．適用 地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設における、じゃかご及びふとんかご（階段式、パネル式）の施工に適用する。	**1．適用** 地すべり防止施設及び急傾斜崩壊対策施設における、~~じゃかご及び~~ふとんかご（階段式、パネル式）の施工に適用する。	**記載の削除**
2．数量算出項目 じゃかご、ふとんかごの施工延長を区分ごとに算出する。	**2．数量算出項目** ~~じゃかご、~~ふとんかごの施工延長を区分ごとに算出する。	
3．区分 区分は、規格とする。	**現行どおり**	
（1）数量算出項目及び区分一覧表 BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする	（1）数量算出項目及び区分一覧表 3 次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする	**記載の変更・削除**
（2）規格区分 じゃかご、ふとんかごの規格ごとに区分して算出する。	（2）規格区分 ~~じゃかご、~~ふとんかごの規格ごとに区分して算出する。	
4．数量算出方法 数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。	**現行どおり**	
（1）必要に応じて、止杭や吸出防止材を別途考慮して算出する。 なお、止杭は、松丸太末口９ｃｍ、長さ１．５ｍを標準とする。	（1）必要に応じて、~~止杭や~~吸出防止材を別途考慮して算出する。 ~~なお、止杭は、松丸太末口９ｃｍ、長さ１．５ｍを標準とする。~~	**記載の削除**

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目＼区分	BIM/CIM モデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
じゃかご	B	○	m		
ふとんかご	B	○	m		

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目＼区分	3 次元モデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
~~じゃかご~~	~~B~~	~~○~~	~~m~~		
ふとんかご	B	○	m		

（2）規格区分
じゃかご、ふとんかごの規格ごとに区分して算出する。

じゃかごの規格
- 鉄線じゃかご（径４５ｃｍ）
- 〃　（径６０ｃｍ）

ふとんかごの規格
- 高さ(D)＝　４０ｃｍ　幅　(B)＝１２０ｃｍ
- 高さ(D)＝　５０ｃｍ　幅　(B)＝１２０ｃｍ
- 高さ(D)＝　５０ｃｍ　幅　(B)＝２００ｃｍ
- 高さ(D)＝　６０ｃｍ　幅　(B)＝１２０ｃｍ
- 高さ(D)＝１００ｃｍ　幅　(B)＝１２０ｃｍ
- 高さ(D)＝１００ｃｍ　幅　(B)＝２００ｃｍ

~~じゃかごの規格~~
- ~~鉄線じゃかご（径４５ｃｍ）~~
- ~~〃　（径６０ｃｍ）~~

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　種	排水構造物工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
2章　付属施設工 **2．1　排水構造物工** **2．1．1　排水構造物工（プレキャスト製品）**	現行どおり	
1．適用 排水構造物工としてプレキャスト製品によるU型側溝（落蓋形、鉄筋コンクリートベンチフリュームを含む）、L形側溝、ヒューム管、ボックスカルバート、蓋版、ＰＣ管、自由勾配側溝（プレキャスト製品を設置し、底部コンクリートを現場打する）、暗渠排水管（硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管）、管（函）渠型側溝、集水桝、コルゲートパイプ、コルゲートフリューム、マンホール、鉄筋コンクリート台付管を施工する場合に適用する。	**1．適用** 排水構造物工としてプレキャスト製品によるU型側溝（落蓋形、鉄筋コンクリートベンチフリュームを含む）、L形側溝、ヒューム管、ボックスカルバート、蓋版、~~ＰＣ管、~~自由勾配側溝（プレキャスト製品を設置し、底部コンクリートを現場打する）、暗渠排水管（硬質塩化ビニル管、ポリエチレン管等の有孔・無孔管）、管（函）渠型側溝、集水桝、コルゲートパイプ、コルゲートフリューム、マンホール、鉄筋コンクリート台付管を施工する場合に適用する。	**記載の削除**
2．数量算出項目 排水構造物工の延長、又は設置基数を区分ごとに算出する。	**2．数量算出項目** 排水構造物工の延長、又は設置基数を区分ごとに算出する。	
3．区分 区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。	**3．区分** 区分は、数量算出項目及び区分一覧表によるものとする。	**記載の変更**
（1）数量算出項目及び区分一覧表	（1）数量算出項目及び区分一覧表	

① ヒューム管（B形管）

区分／項目	BIM/CIMモデル	属性情報								
		作業区分	管径	固定基礎	基礎砕石の有無	規格	生ｺﾝｸﾘｰﾄ規格	単位	数量	備考
ヒューム管（B形管）	B	○	○	○	○	○	○	m		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）1．ヒューム管、B形管（ソケット管）の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
　　2．基礎砕石の敷均し厚は、２０㎝以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
　　3．基礎砕石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

① ヒューム管（B形管）

区分／項目	3次元モデル	属性情報								
		作業区分	管径	固定基礎	基礎砕石の有無	規格	生ｺﾝｸﾘｰﾄ規格	単位	数量	備考
ヒューム管（B形管）	B	○	○	○	○	○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）1．ヒューム管、B形管（ソケット管）の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
　　2．基礎砕石の敷均し厚は、２０㎝以下を標準としており、これにより難い場合は、別途考慮する。
　　3．基礎砕石は、材料の種別・規格にかかわらず適用できる。

積算上の注意事項		（控え頁） 1／3

工　種	排水構造物工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

⑩ＰＣ管

項目＼区分	BIM/CIMモデル	属性情報 作業区分	管径	固定基礎	生ｺﾝｸﾘｰﾄ規格	単位	数量	備考
ＰＣ管	B	○	○	○	○	m		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）１．ＰＣ管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。
　　２．撤去作業、据付・撤去作業は、ＰＣ管のみを対象としている。

⑪コルゲートパイプ

項目＼区分	BIM/CIMモデル	属性情報 作業区分	規格	パイプ径	形式	単位	数量	備考
コルゲートパイプ	B	○	○	○	○	m		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）１．コルゲートパイプの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

⑫コルゲートフリューム

項目＼区分	BIM/CIMモデル	属性情報 作業区分	規格	単位	数量	備考
コルゲートフリューム	B	○	○	m		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）１．コルゲートフリュームの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

現行なし

（２）施工箇所区分
施工箇所区分は、下表のとおりとする。

項目	施工箇所区分
Ｕ型側溝	一般部
	法面小段面部
	法面縦排水部
蓋版	一般部
	法面小段面部

（３）基礎区分
必要性の有無：基礎砕石、均し（基礎）コンクリートについて判定する。
数　　量：必要に応じて、基礎砕石、均し（基礎）コンクリートの数量を算出する。
・基礎砕石は、「第１編（共通編）９．１基礎・裏込砕石工」により数量を算出する。
・均し（基礎）コンクリートは、「第１編（共通編）４．１コンクリート工」により数量を算出する。
・コルゲートパイプ、コルゲートフリュームの場合は、必要に応じて敷砂の数量も算出する。

改正

~~⑩ＰＣ管~~

~~項目＼区分~~	~~BIM/CIMモデル~~	~~属性情報 作業区分~~	~~管径~~	~~固定基礎~~	~~生ｺﾝｸﾘｰﾄ規格~~	~~単位~~	~~数量~~	~~備考~~
~~ＰＣ管~~	~~B~~	~~○~~	~~○~~	~~○~~	~~○~~	~~m~~		

~~BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする~~
~~注）１．ＰＣ管の据付、撤去、据付・撤去の場合である。~~
~~　　２．撤去作業、据付・撤去作業は、ＰＣ管のみを対象としている。~~

⑩コルゲートパイプ

項目＼区分	3次元モデル	属性情報 作業区分	規格	パイプ径	形式	単位	数量	備考
コルゲートパイプ	B	○	○	○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）１．コルゲートパイプの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

⑪コルゲートフリューム

項目＼区分	3次元モデル	属性情報 作業区分	規格	単位	数量	備考
コルゲートフリューム	B	○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）１．コルゲートフリュームの据付、撤去、据付・撤去の場合である。

⑫Ｕ型側溝

項目＼区分	3次元モデル	属性情報 作業区分	規格・仕様	施工箇所区分	基礎砕石の有無	単位	数量	備考
Ｕ型側溝	B	○	○	○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）１．Ｕ型側溝の据付、再利用撤去、再利用撤去・据付の場合である。

⑬自由勾配側溝

項目＼区分	3次元モデル	属性情報 規格・仕様	基礎コンクリートの種類	基礎砕石の有無	底部ｺﾝｸﾘｰﾄの種類	単位	数量	備考
自由勾配側溝	B	○	○	○	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）１．自由勾配側溝の据付の場合である。

⑭蓋版

項目＼区分	3次元モデル	属性情報 作業区分	規格・仕様	施工箇所区分	単位	数量	備考
蓋版	B	○	○	○	枚		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）１．蓋版の据付け、再利用撤去、再利用撤去・据付の場合である。

次頁へ移動

備考

記載の削除

記載の変更

記載の追加

積算上の注意事項		（控え頁） 2／3

工　種	排水構造物工

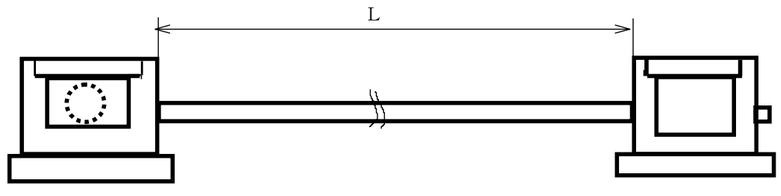
改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
前頁から移動 →	（2）施工箇所区分 施工箇所区分は、下表のとおりとする。 （3）基礎区分 必要性の有無：基礎砕石、均し（基礎）コンクリートについて判定する。 数　　量：必要に応じて、基礎砕石、均し（基礎）コンクリートの数量を算出する。 ・基礎砕石は、「第１編（共通編）９．１基礎・裏込砕石工」により数量を算出する。 ・均し（基礎）コンクリートは、「第１編（共通編）４．１コンクリート工」により数量を算出する。 ・コルゲートパイプ、コルゲートフリュームの場合は、必要に応じて敷砂の数量も算出する。	記載の変更

項　目	施工箇所区分
U型側溝	一般部
	法面小段面部
	法面縦排水部
蓋版	一般部
	法面小段面部

４．数量算出方法
数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

（１）施工延長（Ｌ）のとり方は、下図のとおりとする。



（２）各項目の土工（床掘り・埋戻し）、自由勾配側溝の底部コンクリートの数量は、別途算出する。

現行どおり

積算上の注意事項		（控え頁） 3／3

工　種	舗装版クラック補修工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考

3．8　舗装版クラック補修工

1．適用

コンクリート舗装版のクラックの補修及びコンクリート舗装版・アスファルト舗装版のクラック防止シート張に適用する。

2．数量算出項目

クラック補修、注入材（材料費）、クラック防止シート張、クラック防止シート（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3．区分

区分は、規格とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目＼区分	BIM/CIMモデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
クラック補修	B	×	m		
注入材（材料費）	B	○	m		
クラック防止シート張	B	×	m		
クラック防止シート（材料費）	B	○	m		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4．数量算出方法

数量算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

（1）注入材（材料費）は、クラック補修延長（m）当りの質量（ｋｇ）も算出する。なお、標準的な注入材の使用量は次式による。

Ｇ＝［ｇ×Ｗ×Ｄ×（１＋割増率)］／１０
Ｇ：補修延長m当り数量（ｋｇ）
ｇ：注入材の比重（ｋｇ／ℓ）
Ｗ：補修幅（ｃｍ）
Ｄ：補修深さ（ｃｍ）
割増率は＋０．２３とする。

（2）クラック防止シート（材料費）は、諸雑費率を考慮した数量を算出する。なお、諸雑費率は＋０．１１とする。

3-3-13

現行どおり

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目＼区分	3次元モデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
クラック補修	B	×	m		
注入材（材料費）	B	○	m		
クラック防止シート張	B	×	m		
クラック防止シート（材料費）	B	○	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4．数量算出方法

数量算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

（1）注入材（材料費）は、クラック補修延長（m）当りの質量（ｋｇ）も算出する。なお、標準的な注入材の使用量は次式による。なお、割増率の内訳は、諸雑費と注入材のロスとする。

Ｇ＝［ｇ×Ｗ×Ｄ×（１＋割増率)］／１０
Ｇ：補修延長m当り数量（ｋｇ）
ｇ：注入材の比重（ｋｇ／ℓ）
Ｗ：補修幅（ｃｍ）
Ｄ：補修深さ（ｃｍ）
割増率は＋０．２３とする。

（2）クラック防止シート（材料費）は、ロス率を考慮した数量を算出する。なお、ロス率は＋０．１１とする。

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　種	床版補強工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
3．20　床版補強工 3．20．1　鋼板接着工	→ 現行どおり	
1．適用 既設橋梁ＲＣ床版の補強工としての鋼板接着工（注入工法）に適用する。	削除	廃止
2．数量算出項目 鋼板の鋼材質量、鋼板取付、シール、注入、塗装、クラック処理の数量を算出する。		

（1）数量算出項目一覧表

項目		BIM/CIMモデル	属性情報			
			規格・仕様	単位	数量	備考
鋼板接着	鋼板の鋼材質量	I		t		ﾌﾟﾗｲｽ板質量を含める
	鋼板取付	B		m^2		ｽﾌﾟﾗｲｽ板面積は含めない
	注入	B		kg		3.(1)鋼板接着3)注入
	シール	B		kg		3.(1)鋼板接着2)ｼｰﾙ
	塗装面積	B		m^2		
クラック処理	注入	B		kg		
	シール	B		kg		
	ｸﾗｯｸ処理延長	B		m		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
鋼板の鋼材質量のBIM/CIMモデルによる数量算出方法は、鋼構造を参考とする

3．数量算出方法

数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

（1）鋼板接着

1）鋼板の鋼材質量
鋼材質量は、「第３編（道路編）４章鋼橋上部工　４．１鋼材」を参照の上、算出する。

2）シール
シール材の数量は、縁部、継目部について（スプライス板も含む）積み上げにより算出する。

3）注入
注入材の使用量は、「（鋼板取付面積＋スプライス板取付面積）×注入厚さ×単位質量」により算出する。なお、注入厚は５ｍｍを標準とする。

4）鋼板接着
鋼板接着の面積は、鋼板取付面積とする。

5）塗装
塗装工程別及び塗料種類別に塗装面積を算出する。

積算上の注意事項		（控え頁） 1／4

工　種	床版補強工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
3．20．2　増桁架設工 **1．適用** 既設橋梁ＲＣ床版の補強工としての増桁架設工に適用する。 **2．数量算出項目** 既設部材撤去、鋼材の質量、増桁取付質量、ボルト、シール、注入、塗装、クラック処理の数量を算出する。 （1）数量算出項目一覧表	→ 削除	**廃止**

項目		BIM/CIM モデル	属性情報 規格・仕様	単位	数量	備考
増桁架設	既設部材撤去 ※1	I		t		
	鋼材の質量 ※1	I		t		
	増桁取付質量 ※1	I		t		
	ボルト	B		本		
	シール	B		kg		
	注入	B		kg		3.(5)注入
	塗装	B		㎡		
ｸﾗｯｸ処理	注入	B		kg		
	シール	B		kg		
	ｸﾗｯｸ処理延長	B		m		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
※1）BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、鋼構造を参考とする

3．数量算出方法
数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。
（1）既設部材撤去工
鋼材質量は、「第３編（道路編）４章鋼橋上部工　４．１鋼材」を参照の上算出する。
（2）鋼材の鋼材質量
鋼材質量は、「第３編（道路編）４章鋼橋上部工　４．１鋼材」を参照の上算出する。
（3）増桁取付
増桁取付の質量は主桁、副部材の質量とする。
また、増桁取付の質量は、障害無しと障害有りに区分して算出し、障害とはガス管、水道管、通信ケーブル等施工上支障をきたす占用物件等をいう。
なお、障害「有り」、「無し」の判断は、スパンごとに行うものとし、その場合の数量は、当該スパンの全増桁数量を対象とする。
（4）シール
シール材の数量は、積み上げにより算出する。
（5）注入
注入材の数量は、「増桁取付面積×注入厚さ×単位質量」により算出する。
なお、注入厚は８ｍｍ を標準とする。
（6）塗装
塗装工程別及び塗料種類別に塗装面積を算出する。

積算上の注意事項		（控え頁） 2／4

工　種	床版補強工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

3．20．3　炭素繊維接着工

1．適用

既設橋梁ＲＣ床版の補強工として、炭素繊維接着工（上向き作業）に適用する。

2．数量算出項目

炭素繊維シート、下地処理工、プライマー工、不陸修正工、炭素繊維シート接着工、仕上げ塗装工の数量を算出する。

（1）数量算出項目一覧表

項目		BIM/CIMモデル	属性情報 規格・仕様	単位	数量	備考
炭素繊維接着	炭素繊維シート	B		m^2		
	下地処理工	B		m^2		
	プライマー工	B		kg		
	不陸修正工	B		kg		
	炭素繊維シート接着工	B	エポキシ樹脂含浸材	kg		
	仕上げ塗装工	B		m^2		
クラック処理	注入	B		kg		
	シール	B		kg		
	クラック処理延長	B		m		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

※　クラック処理は、必要な場合に計上する。

3-3-37

改正

3．20．1　炭素繊維接着工

1．適用

既設橋梁ＲＣ床版の補強工として、格子貼りを標準とした炭素繊維接着工（上向き作業）に適用する。

2．数量算出項目

~~炭素繊維シート、~~下地処理工、プライマー工、不陸整正工、炭素繊維シート接着工、仕上げクラック処理の注入、シール、処理延長~~塗装工~~の数量を算出する。

（1）数量算出項目一覧表

項目		3次元モデル	属性情報 規格・仕様	単位	数量	備考
炭素繊維接着	~~炭素繊維シート~~	~~B~~		~~m^2~~		
	下地処理工	B		m^2		
	プライマー工	B		m^2		
	不陸整正工	B		m^2		
	炭素繊維シート接着工	B	○	m^2		
	仕上げ塗装工	B		m^2		
クラック処理	注入	B		kg		
	シール	B		kg		
	クラック処理延長	B		m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

※　クラック処理は、必要な場合に計上する。

備考

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 3／4

工　種	床版補強工

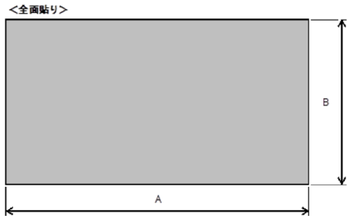
改正理由	一部改正	改正 現行	

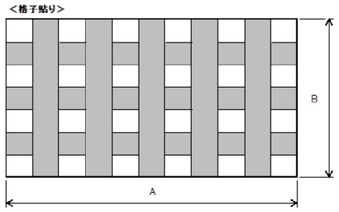
現　行	改　正	備　考

3．数量算出方法

数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

（１）各項目の施工面積は１橋当りとし、以下の通りとする。





施工面積

		全面貼り	格子貼り
下地処理工	補強対象面積	A×B	
プライマー工	炭素繊維投影面積	A×B	上図の網掛け部分の面積
不陸修正工	炭素繊維投影面積	A×B	上図の網掛け部分の面積
炭素繊維シート接着工	炭素繊維投影面積 （１層当り）	A×B	各方向の炭素繊維シート面積の合計
仕上げ塗装工	炭素繊維投影面積	A×B	上図の網掛け部分の面積

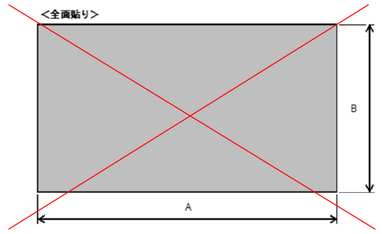
（２）シール及び注入

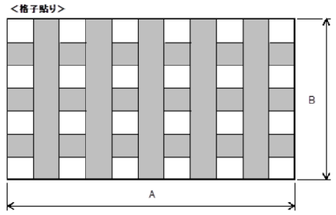
シール材及び注入材の数量は、積み上げにより算出する。

3．数量算出方法

数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

（１）各項目の施工面積は１橋当りとし、以下の通りとする。なお、格子貼りを標準とする。





施工面積

		~~全面貼り~~	格子貼り
下地処理工	補強対象面積	A×B	
プライマー工	炭素繊維投影面積	~~A×B~~	上図の網掛け部分の面積
不陸修正工	炭素繊維投影面積	~~A×B~~	上図の網掛け部分の面積
炭素繊維シート接着工	炭素繊維投影面積 （１層当り）	~~A×B~~	各方向の炭素繊維シート面積の合計
仕上げ塗装工	炭素繊維投影面積	~~A×B~~	上図の網掛け部分の面積

現行どおり

記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 4／4

工　種	鋼橋架設工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考
4．4　鋼橋架設工 1．適用 鋼橋上部工の架設工に適用する。 2．数量算出項目 地組、架設、本締めボルト、現場溶接、金属支承、ゴム支承、落橋防止装置、仮設備の数量を区分毎に算出する。 3．区分 区分は、規格・仕様、橋梁型式とする。 （1）数量算出項目及び区分一覧表	現行どおり	

項目＼区分		BIM/CIMモデル	属性情報 規格・仕様	橋梁型式	単位	数量	備考
地組質量		Ⅰ	×	○	t		注）1
架設	橋体総質量	Ⅰ	×	○	t		注）2
	主桁質量	Ⅰ	×	○	t		
	主桁架設回数	Ⅲ	×	○	回		
本締めボルト本数		Ⅱ	○	×	本		
現場溶接		Ⅱ	○	×	m		
Uリブ溶接		Ⅱ	○	×	個		

「地組質量」は、BIM/CIMモデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて橋梁形式等を算出することより「Ⅰ」を適用する。
「架設」の「橋体総質量」と「主桁質量」は、BIM/CIMモデルを用いて質量を算出し、属性情報を用いて橋梁形式等を算出することより「Ⅰ」を適用する。
「主桁架設回数」は、「架設」を表現しているBIM/CIMモデルを用いて個数を算出することより「Ⅲ」を適用する。
「本締めボルト本数」、「現場溶接」と「Uリブ溶接」は、簡易な形状・記号（点、線、面）を用いて位置と本数等を算出し、属性情報を用いて規格・仕様を区分することより「Ⅱ」を適用する。

注）1．「地組質量」は、地上組立をすべき主桁（鋼床版・溶接版を含む）の質量であり、副部材及び高欄等の質量は除く。
2．「橋体総質量」は、「鋼道路橋数量集計マニュアル（案）」における「工数算定要素集計表」の加工鋼材質量合計（本体及び本体と同様に集計する付属物の加工鋼材質量の合計）から排水装置の質量を除き、伸縮装置及び検査路（桁付・下部付）の加工鋼材質量を加算したものとする。なお、鋼床版桁の場合は排水桝の鋼材質量を加算する。
3．主桁質量は、「鋼道路橋数量集計マニュアル（案）」にて主桁の大型材片及び小型材片に分類されている部材の総質量である。なお、鋼床版桁の場合は鋼床版の大型材片及び小型材片の質量の合計も含む。
4．主桁架設回数には、鋼床版の架設回数を含む。なお、地組を行った場合の主桁架設回数は地組後の部材数を架設回数とする。

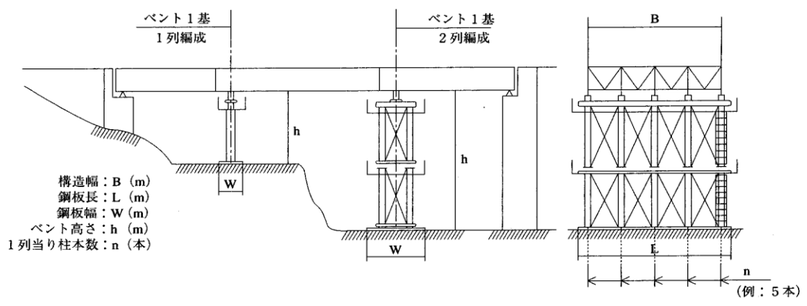
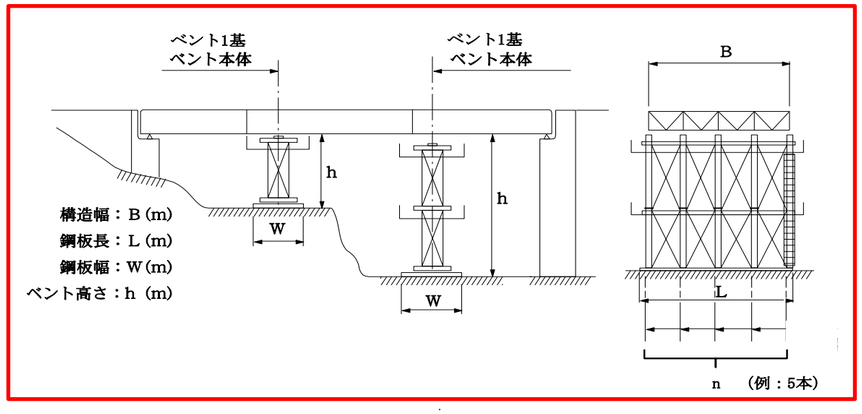
注）1．「地組質量」は、地上組立をすべき主桁（鋼床版・溶接版を含む）の質量であり、副部材及び高欄等の質量は除く。
2．「橋体総質量」は、「鋼道路橋数量集計マニュアル（案）」における「工数算定要素集計表」の加工鋼材質量合計（本体及び本体と同様に集計する付属物の加工鋼材質量の合計）から排水装置の質量を除き、伸縮装置及び検査路（桁付・下部付）の加工鋼材質量を加算したものとする。なお、鋼床版桁の場合は排水桝の鋼材質量を加算する。
3．主桁質量は、「鋼道路橋数量集計マニュアル（案）」にて主桁の大型材片及び小型材片に分類されている部材の総質量である。なお、鋼床版桁の場合は鋼床版の大型材片及び小型材片の質量の合計も含む。
4．鋼製以外（アルミ又はＦＲＰ）の検査路は、上記鋼材質量に加算しないものとする。
5．主桁架設回数には、鋼床版の架設回数を含む。なお、地組を行った場合の主桁架設回数は地組後の部材数を架設回数とする。

記載の追加

積算上の注意事項		（控え頁） 1／2

工　種	鋼橋架設工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考
４．数量算出方法 数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 （１）ベント設備質量 トラッククレーン等によるベント工法で使用されるベントのように、架設する部材毎に設置し橋体のみを支持するベントで比較的大きな反力とならない高さ３０m以内のベント質量は、下記により算出する。 ベント総質量（T）は、次式による。 Ｔ＝ΣＴｉ h＜10　　Ｔｉ＝0.372×（Ｂ＋1.5）＋｛4.737×n＋0.372×（Ｂ＋1.5）｝×ｈ／10 10≦ｈ≦30　　Ｔｉ＝0.39×ｎ×ｈ＋0.744×（Ｂ＋1.5）＋0.837×ｎ ただし、　Ｔ：ベント総質量（つなぎ材、筋かい、梁等を含む）（ｔ） Ｔｉ：１基当りのベント質量（ｔ） ｎ：１列当りのベント柱本数（本） ｈ：ベント高さ（基礎天端から主桁下端まで）（m） Ｂ：外桁～外桁間隔（箱桁は外Ｗｅｂ～外Ｗｅｂ間隔）（m） なお、Ｔｉ、ｈ、Ｂとも小数第１位止（２位四捨五入）とする。 （２）ベント基礎鋼板 ベント基礎で鋼板を用いる場合の延べ面積（Ａ）は次式による。 Ａ＝ΣＡｉ Ａｉ＝（Ｂ＋２）×３ ただし、Ａｉ：ベント１基当りの基礎の面積 Ｂ：外桁～外桁間隔（箱桁は外Ｗｅｂ～外Ｗｅｂ間隔）（m） なお、Ａｉ、Ｂとも小数第１位止（２位四捨五入）とする。 **ベント設備（参考図）**  3-4-18	現行どおり  	記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 2／2

工　種	鋼製橋脚設置工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考

6章　鋼製橋脚設置工

6．1　鋼製橋脚設置工

1．適用

陸上での鋼製橋脚設置工事に適用する。

2．数量算出項目

鋼製橋脚の基数と架設鋼材質量、地組鋼材質量、現場溶接延長を区分ごとに算出する。

3．区分

区分は、規格とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目＼区分	BIM/CIMモデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
アンカーフレーム架設	Ⅱ	×	基		
アンカーフレームグラウト注入	Ⅰ	○	m³		
鋼製橋脚地組	Ⅰ	×	t		
鋼製橋脚地組連結	Ⅱ	×	箇所		
鋼製橋脚架設	Ⅰ	×	T		
鋼製橋脚架設ブロック	Ⅱ	×	ﾌﾞﾛｯｸ		
鋼製橋脚	Ⅱ	×	脚		
鋼製橋脚膨張モルタル注入	Ⅰ	○	m³		
鋼製橋脚無収縮モルタル注入	1	○	m³		
現場溶接	Ⅱ	×	m		平均板厚ｔ＝㎜
ビード仕上げ	Ⅱ	×	m		
トルシアボルト	Ⅱ	○	本		
足場	B	×	掛㎡		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、鋼構造およびコンクリート構造を参考とする

3-6-2

現行どおり

3．区分

区分は、規格とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目＼区分	3次元モデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
アンカーフレーム架設	Ⅱ	×	基		
アンカーフレームグラウト注入	Ⅰ	○	m³		
鋼製橋脚地組	Ⅰ	×	t		
鋼製橋脚地組連結	Ⅱ	×	箇所		
鋼製橋脚架設	Ⅰ	×	T		
鋼製橋脚架設ブロック	Ⅱ	×	ﾌﾞﾛｯｸ		
鋼製橋脚	Ⅱ	×	脚		
~~鋼製橋脚膨張モルタル注入~~	~~1~~	~~○~~	~~m³~~		
鋼製橋脚無収縮モルタル注入	Ⅰ	○	m³		
現場溶接	Ⅱ	×	m		平均板厚ｔ＝㎜
ビード仕上げ	Ⅱ	×	m		
トルシアボルト	Ⅱ	○	本		
足場	B	×	掛㎡		

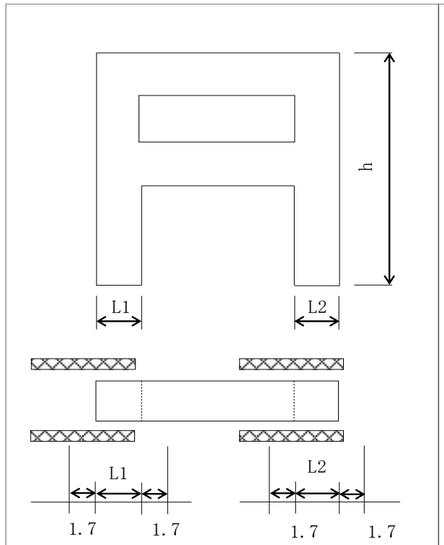
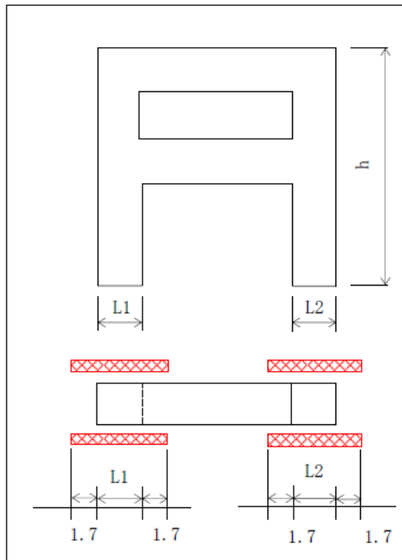
3次元モデルによる数量算出方法は、鋼構造およびコンクリート構造を参考とする

記載の変更・削除

積算上の注意事項		（控え頁） 1／2

工　種	鋼製橋脚設置工

改正理由	一部改正	改正／現行	

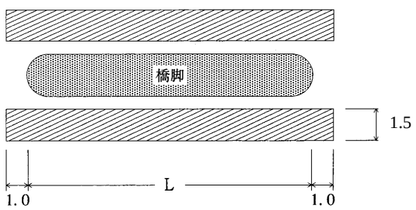
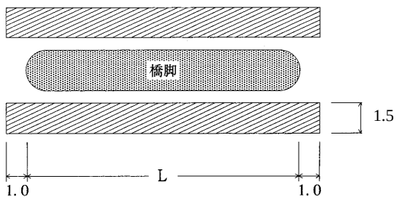
現行	改正	備考
4．数量算出方法 数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 （１）アンカーフレームモルタル注入量はアンカーフレーム１基ごとに算出する。 （２）鋼製橋脚膨張モルタル注入は総量を算出する。なお、脚毎の内訳も算出する。 （３）鋼製橋脚無収縮モルタル注入は総量を算出する。なお、脚毎の内訳も算出する。 （４）現場溶接はビード仕上げの有無に関わらず総延長を算出する。 （５）ビード仕上げは必要な場合のみ算出するものとし、総延長を算出する。 （６）足場 足場は「第１編（共通編）１１章仮設工１１．４足場工」によるものとする。 １）足場面積の算出は、下記のとおりとする。なお現場条件、橋脚の構造および施工方法等でこれによりがたい場合は、別途算出するものとする。  1．枠組足場を標準とする。 2．足場面積（掛㎡） 枠組＝｛２×（Ｌ１＋３．４）｝×ｈ ＋｛２×（Ｌ２＋３．４）｝×ｈ	**4．数量算出方法** 数量の算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。 （１）アンカーフレームモルタル注入量はアンカーフレーム１基ごとに算出する。 ~~（２）鋼製橋脚膨張モルタル注入は総量を算出する。なお、脚毎の内訳も算出する。~~ （２）鋼製橋脚無収縮モルタル注入は総量を算出する。なお、脚毎の内訳も算出する。 （３）現場溶接はビード仕上げの有無に関わらず総延長を算出する。 （４）ビード仕上げは必要な場合のみ算出するものとし、総延長を算出する。 （５）足場 足場は「第１編（共通編）１１章仮設工１１．４足場工」によるものとする。 １）足場面積の算出は、下記のとおりとする。なお現場条件、橋脚の構造および施工方法等でこれによりがたい場合は、別途算出するものとする。  1．枠組足場を標準とする。 2．足場面積（掛㎡） 枠組＝｛２×（Ｌ１＋３．４）｝×ｈ ＋｛２×（Ｌ２＋３．４）｝×ｈ	**記載の削除** **記載の変更**

3-6-3

積算上の注意事項		（控え頁） 2／2

工　種	支承取替工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
（2）支承取替（鋼橋）の支承形式による区分 支承形式 ― Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ （3）支承取替（鋼橋）の現場条件による区分 現場条件 ― 鈑桁（支承形式　Ⅱ、Ⅲのみ） １箱桁２沓（支承形式　Ⅱ、Ⅲのみ） １箱桁１沓（支承形式　Ⅱ、Ⅲのみ） （4）下部工ブラケット取付の単部材質量による区分 単部材質量 ― ６００kg以下 ６００kgを超え２，０００kg以下 関連数量算出項目 項目 / BIM/CIMモデル / 属性情報（単位 / 数量 / 備考） 現場補修塗装工 / B / m^2 / / / BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする **4．数量算出方法** 数量算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。 （1）支承（材料費）は、規格ごとにアンカーボルトを含み、個数を算出する。 （2）足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には次式により算定する。 足場面積A＝（L＋1．0×2）×1．5×2×n L：橋台及び橋脚の長さ（m） n：橋台及び橋脚の数（ただし、橋台の場合は1/2とする。）  3-8-6	現行どおり **4．数量算出方法** 数量算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。 （1）支承（材料費）は、規格ごとにアンカーボルトを含み、個数を算出する。 （2）足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には次式により算定する。 足場面積A＝（L＋1．0×2）×1．5×2×n L：橋台及び橋脚の長さ（m） n：橋台及び橋脚の数（ただし、橋台の場合は1/2とする。）  （3）供用日数は、足場に対して算出する。	記載の追加

積算上の注意事項		（控え頁） 1／1

工　種	沓座拡幅工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考
8．3　沓座拡幅工		
1．適用 コンクリート沓座拡幅工のうちコンクリート削孔、充填補修、チッピング、アンカー筋挿入、鉄筋組立、型枠製作・設置・撤去、コンクリート打設・養生、足場及び防護、鋼製ブラケット沓座拡幅工のうちコンクリート削孔、アンカーボルト挿入、充填補修、不陸整正、鋼製ブラケット設置、足場及び防護に適用する。	現行どおり	
2．数量算出項目 チッピング（厚２㎝以下）、アンカー筋挿入、アンカー筋（材料費）、注入材（材料費）、鉄筋（沓座拡幅工）、型枠（沓座拡幅工）、コンクリート（沓座拡幅工）の数量を算出する。	2．数量算出項目 チッピング（厚２㎝以下）、アンカー筋挿入（コンクリート沓座拡幅）、アンカー筋（材料費）、注入材（材料費）、鉄筋（沓座拡幅工）、型枠（沓座拡幅工）、コンクリート（沓座拡幅工）の数量を算出する。	記載の追加
3．区分 区分は、規格とする	現行どおり	
（1）数量算出項目一覧表	（1）数量算出項目一覧表	記載の変更 記載の追加

（1）数量算出項目一覧表

項目	BIM/CIMモデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
チッピング（厚２㎝以下）	B	×	m^2		
アンカー筋挿入	B	○	本		
アンカー筋（材料費）	B	○	本		
注入材（材料費）	B	○	本		
鉄筋（沓座拡幅工）	B	○	t		
型枠（沓座拡幅工）	B	×	m^2		
コンクリート（沓座拡幅工）	A	○	m^3		

BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

（1）数量算出項目一覧表

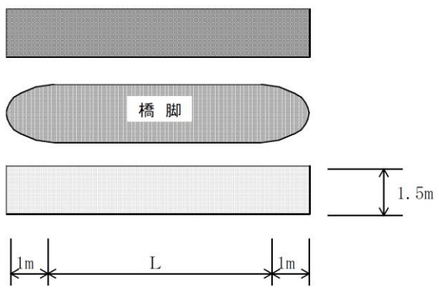
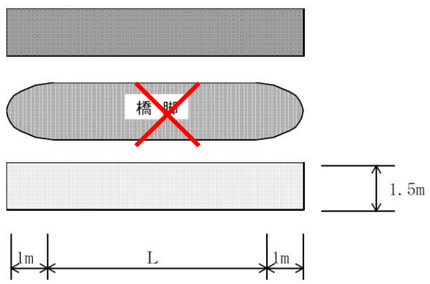
項目	3次元モデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
チッピング（厚２㎝以下）	B	×	m^2		
アンカー筋挿入 （コンクリート沓座拡幅）	B	○	本		
アンカー筋（材料費）	B	○	本		
注入材（材料費）	B	○	本		
鉄筋（沓座拡幅工）	B	○	t		
型枠（沓座拡幅工）	B	×	m^2		
コンクリート（沓座拡幅工）	A	○	m^3		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

積算上の注意事項		（控え頁） 1／2

工　種	沓座拡幅工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
関連数量算出項目 項目 / BIM/CIMモデル / 単位 / 数量 / 備考 削孔 / B / 孔 / / 「第３編（道路編）３．２２落橋防止装置工」参照 アンカーボルト挿入 / B / 本 / / 「第３編（道路編）３．２２落橋防止装置工」参照 充填補修 / B / 孔 / / 「第３編（道路編）３．２２落橋防止装置工」参照 鋼製ブラケット設置 / B / 基 / / 「第３編（道路編）８．２支承取替工」参照 足場 / B / m^2 / / 「第３編（道路編）８．２支承取替工」参照 防護 / B / m^2 / / 「第３編（道路編）３．２０床板補強工」参照 BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする 注）防護は、鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に設置するものとし、板張を原則とする。	関連数量算出項目 項目 / 3次元モデル / 単位 / 数量 / 備考 コンクリート削孔 / B / 孔 / / 「第３編（道路編）３．２２落橋防止装置工」参照 アンカーボルト挿入（鋼製ブラケット沓座拡幅） / B / 本 / / 「第３編（道路編）３．２２落橋防止装置工」参照 充填補修 / B / 孔 / / 「第３編（道路編）３．２２落橋防止装置工」参照 鋼製ブラケット設置 / B / 基 / / 「第３編（道路編）８．２支承取替工」参照 足場 / B / m^2 / / 「第３編（道路編）８．２支承取替工」参照 防護 / B / m^2 / / 「第３編（道路編）３．２０床板補強工」参照 3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする 注）防護は、鉄道、道路等があり第三者に危害を及ぼす恐れのある場合に設置するものとし、板張を原則とする。	**記載の追加**
４．数量算出方法 数量算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。 （１）アンカー筋（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。 （２）注入材（材料費）は、ロスを１６％とし規格ごとに１本当りの使用量（kg）を算出する。 （３）鉄筋（沓座拡幅工）は、規格ごとに質量（ｔ）を算出する。 （４）コンクリート（沓座拡幅工）は、規格ごとに数量（m^3）を算出する。 （５）足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には次式により算定する。 足場面積Ａ＝（Ｌ＋２）×２×１．５×ｎ Ｌ：橋台及び橋脚の長さ（m） ｎ：橋台及び橋脚の数（ただし橋台の場合は１／２とする。）	**４．数量算出方法** 数量算出は、「第１編（共通編）１章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。 （１）アンカー筋（材料費）は、規格ごとに本数を算出する。 （２）注入材（材料費）は、ロスを１６％とし規格ごとに１本当りの使用量（kg）を算出する。 （３）鉄筋（沓座拡幅工）は、規格ごとに質量（ｔ）を算出する。 （４）コンクリート（沓座拡幅工）は、規格ごとに数量（m^3）を算出する。 ~~（５）足場面積は、現場条件、施工条件等を考慮して必要面積を算定するものとするが、一般には次式により算定する。~~ ~~足場面積Ａ＝（Ｌ＋２）×２×１．５×ｎ~~ ~~Ｌ：橋台及び橋脚の長さ（m）~~ ~~ｎ：橋台及び橋脚の数（ただし橋台の場合は１／２とする。）~~	**記載の削除**
５．　参考図 足場面積 	~~**５．　参考図**~~ 足場面積 	

積算上の注意事項		（控え頁） 2／2

工　種	電線共同溝(C･C･BOX)工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行

10．3．3 土工

1．適用

電線共同溝（Ｃ・Ｃ・ＢＯＸ）工事の土工に適用する。
・床掘り：土質が土砂（砂質土及び砂、粘性土、レキ質土）の床掘り作業の場合
・埋戻し・締固め：管路材及びプレキャストボックス設置後の埋戻し・締固め作業の場合

2．数量算出項目

床掘り、埋戻し・締固めの土量を区分ごとに算出する。

3．区分

区分は、土質とする。

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目＼区分	BIM/CIMモデル	属性情報			
		土質	単位	数量	備考
床掘り	土構造	×	m^3		
埋戻し・締固め	土構造	○	m^3		

（2）土質区分
土質による区分

土質 ― 土砂
　　 ― 中埋砂

10．3．4 基礎工

基礎工の数量は、「第１編（共通編）　４章コンクリート工　４．１ コンクリート工及び９章基礎工　９．１ 基礎・裏込砕石工」により算出する。

3-10-15

改正

現行どおり

2．数量算出項目

床掘り、埋戻し・締固めの土量、埋設表示シート（材料費）を区分ごとに算出する。

現行どおり

（1）数量算出項目及び区分一覧表

項目＼区分	3次元モデル	属性情報				
		規格・仕様	土質	単位	数量	備考
床掘り	土構造	×	×	m^3		
埋戻し・締固め	土構造	×	○	m^3		
埋設表示シート（材料費）	B	○	×	m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注）１．床掘り数量は、地山数量とする。
　　２．埋戻し数量は、締固め後数量とする。

現行どおり

備考

記載の追加

記載の追加

積算上の注意事項		（控え頁） 1／3

工　種	電線共同溝(C･C･BOX)工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現　行	改　正	備　考
10．3．5　管路工 **1．適用** 電線共同溝（C・C・BOX）の設置工事の管路工に適用する。 ・管路材設置：露出部に単管（呼び径１５０㎜以下）を設置する場合 埋設部に単管・FA管（呼び径１５０㎜以下），ボディ管（呼び径２００㎜（さや管１２条以下），２５０㎜（さや管２１条以下)），多条管（可とう性のある波付き管路材で呼び径１５０㎜以下）を設置する場合 ・プレキャストボックス設置：質量が１１，０００kg以下のプレキャストボックスブロックの設置作業の場合 ・蓋設置：質量が２，０００kg以下の蓋の設置作業の場合 **2．数量算出項目** 管路材設置、受金具（材料費）、支持金具（材料費）、管路受台（スペーサ）（材料費）、プレキャストボックス設置、蓋設置、蓋（材料費）を区分ごとに算出する。 **3．区分** 区分は、規格・仕様、作業区分、ボックスブロック１個当り質量、蓋１組当り質量とする。 （1）数量算出項目及び区分一覧表	**10．3．5　管路工** **1．適用** 電線共同溝（C・C・BOX）の設置工事の管路工に適用する。 （1）管路材設置~~：~~ ・露出部に単管（呼び径１５０㎜以下）を設置する場合 ・埋設部に単管・FA管（呼び径１５０㎜以下)、ボディ管（呼び径２００㎜（さや管１２条以下)、２５０㎜（さや管２１条以下))、多条管（可とう性のある波付き管路材で呼び径１５０㎜以下）を設置する場合 （2）プレキャストボックス設置~~：~~ ・質量が１１，０００kg以下のプレキャストボックスブロックの設置作業の場合 （3）蓋設置~~：~~ ・質量が２，０００kg以下の蓋の設置作業の場合 現行どおり	**記載の変更**

区分／項目	BIM/CIMモデル	属性情報						
		規格・仕様	作業区分	ﾎﾞｯｸｽﾌﾞﾛｯｸ1個当り質量	蓋1組当り質量	単位	数量	備考
管路材設置	B	○	○			m		
受金具（材料費）	B	○				個		
支持金具（材料費）	B	○				個		
管路受台(スペーサ)（材料費）	B	○				個		
プレキャストボックス設置	B	○		○		個		注２（２）その他１）
蓋設置	B	○			○	個		注３（２）その他２）

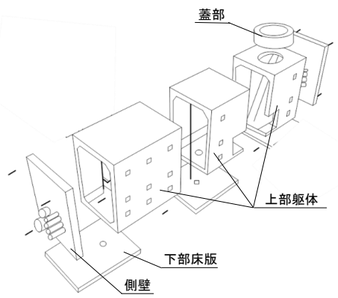
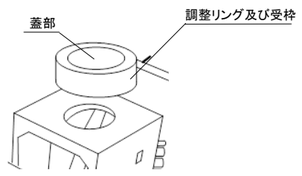
BIM/CIMモデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注）１．埋設部・露出部毎に算出する。なお、露出部とは、橋梁添架及びトンネル内等設置により露出管路となる部分をいう。
２．プレキャストボックスは、側壁、本体（上部躯体、下部床版）からなる個々のブロックより構成される。計上するボックスブロック個数は、蓋部・調整リング、受枠を除く側壁、本体（上部躯体、下部床版）からなる個々のブロック数を計上する。なお、上部躯体質量は、蓋部、調整リング及び受枠質量を含めないものとする。
３．蓋１組当り質量は、蓋部、調整リング及び受枠も含めた１組当り質量を計上する。

積算上の注意事項		（控え頁） 2／3

工　種	電線共同溝(C・C・BOX)工

改正理由	一部改正	改正 現行	

現行	改正	備考
（２）その他 １）プレキャストボックス 下図のとおり、プレキャストボックス１箇所ごとにプレキャストボックスブロック質量区分別個数を算出する。ただし、個々のプレキャストボックスブロック質量を併記すること。  プレキャストボックスブロック１個当り質量区分 ①１，０００kg以下 ②１，０００kg超～　４，０００kg以下 ③４，０００kg超～１１，０００kg以下	（２）その他 １）管路材設置 ・管路材作業区分は、露出部、埋設部とする。なお、橋梁添架及びトンネル内等設置により露出管路となる部分をいう。 ・管路材は、単管、ＦＡ管、ボディ管、多条管、さや管の規格・仕様別に算出する。 ・多条管は、管１本当り（１条当り）とする。 ・さや管の条数は、ボディ管１本当りに対する条数とする。 ２）プレキャストボックス 現行どおり	記載の追加
２）蓋 下図のとおり、蓋１組当りの質量を算出し、質量区分ごとに組数を算出する。  蓋１組当り質量区分 ①２００kg以下 ②２００kg超～　８００kg以下 ③８００kg超～２，０００kg以下	３）蓋 現行どおり	記載の変更

積算上の注意事項		（控え頁） 3／3